

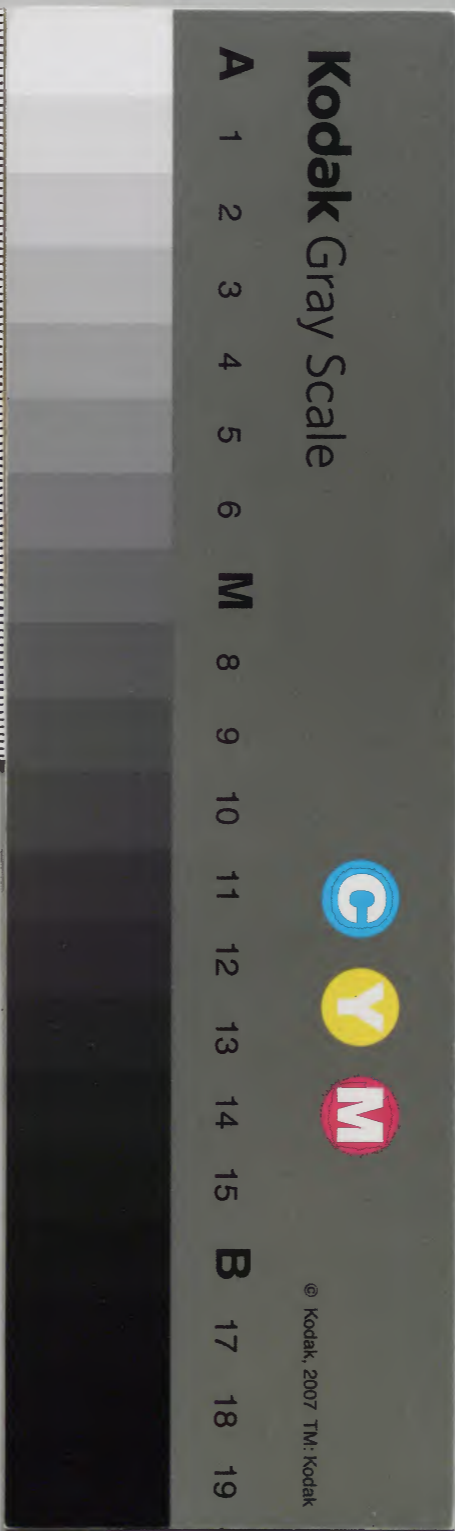
# 佐渡年代記

九

			四	和
		一	八	書
		二	九	門
○	○	八	七	
冊	架	函	一	類

庫	文	閣	内	
一		四		和
函		八		書
二	一	七		
架	冊	一		類

内閣文庫			
番 號	和	48971	
冊 數	10 ( 9 )		
函 號	140	303	



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり  
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

和書  
四八九七號



文政元戊寅年 四月廿三日

一 去年の年貢米三万石の半は  
也知米也

一 此後年貢米は入國料に度々改められ

一 今更に米穀の種石を定率に改め入國に種石を

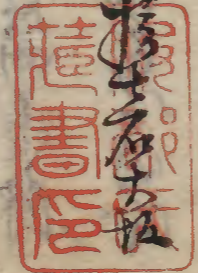
より種石に改め

一 鳥越等の所和二年半の物も種石切り

新起の種石も米の由り連絡し

文化年中の表儀本心は

りて出さるる事



一 備方所借支門下人任人回書人  
一 備方所借支門下人任人回書人  
一 備方所借支門下人任人回書人  
一 備方所借支門下人任人回書人  
一 備方所借支門下人任人回書人  
一 備方所借支門下人任人回書人  
一 備方所借支門下人任人回書人  
一 備方所借支門下人任人回書人  
一 備方所借支門下人任人回書人  
一 備方所借支門下人任人回書人

一 備方所借支門下人任人回書人  
一 備方所借支門下人任人回書人  
一 備方所借支門下人任人回書人  
一 備方所借支門下人任人回書人  
一 備方所借支門下人任人回書人  
一 備方所借支門下人任人回書人  
一 備方所借支門下人任人回書人  
一 備方所借支門下人任人回書人  
一 備方所借支門下人任人回書人  
一 備方所借支門下人任人回書人

親の命を承りての事... 知を承りての事... 命を承りての事...

一 徳政校... 命を承りての事... 命を承りての事...

一 命を承りての事... 命を承りての事... 命を承りての事...

一 命を承りての事... 命を承りての事... 命を承りての事...

一 命を承りての事... 命を承りての事... 命を承りての事...



一 井ノ内... 判... 係... 係...  
一 七... 判... 係... 係...  
一 係... 係... 係... 係...

一 高橋... 係... 係... 係...  
一 係... 係... 係... 係...  
一 係... 係... 係... 係...  
一 係... 係... 係... 係...

一 今... 係... 係... 係...  
一 係... 係... 係... 係...  
一 係... 係... 係... 係...  
一 係... 係... 係... 係...

一 係... 係... 係... 係...  
一 係... 係... 係... 係...  
一 係... 係... 係... 係...  
一 係... 係... 係... 係...

大坂より船にて京都へ参上候事候に  
江戸より参上候事候に

御目見え候事候に

本年早稲刈り候事候に  
御目見え候事候に

五月より六月にかけて

江戸より参上候事候に  
御目見え候事候に

御目見え候事候に

御目見え候事候に

御目見え候事候に

御目見え候事候に

御目見え候事候に

御目見え候事候に

御目見え候事候に

御目見え候事候に

御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに

御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに

御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに  
御尋ねの事なるを申し候へるに





心は後世の代に作れしものなり  
年々大目録を只方としてしむるものなり  
八月十日の事なり

一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり

一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり  
一 赤門の事なり

揚子江の事...  
海に注ぐ...  
...  
...  
...

一 後多末...  
...  
...  
...  
...

一 一 此の...  
...  
...  
...  
...

一 一 此の...  
...  
...  
...  
...

一 一 此の...  
...  
...  
...  
...

一 一 此の...  
...  
...  
...  
...

平田通に在る村ありしに平田通に在る村入云  
平田通に在る村ありしに平田通に在る村入云  
平田通に在る村ありしに平田通に在る村入云  
平田通に在る村ありしに平田通に在る村入云  
平田通に在る村ありしに平田通に在る村入云  
平田通に在る村ありしに平田通に在る村入云  
平田通に在る村ありしに平田通に在る村入云  
平田通に在る村ありしに平田通に在る村入云  
平田通に在る村ありしに平田通に在る村入云  
平田通に在る村ありしに平田通に在る村入云

一 平田通に在る村ありしに平田通に在る村入云  
一 平田通に在る村ありしに平田通に在る村入云  
一 平田通に在る村ありしに平田通に在る村入云  
一 平田通に在る村ありしに平田通に在る村入云  
一 平田通に在る村ありしに平田通に在る村入云  
一 平田通に在る村ありしに平田通に在る村入云  
一 平田通に在る村ありしに平田通に在る村入云  
一 平田通に在る村ありしに平田通に在る村入云  
一 平田通に在る村ありしに平田通に在る村入云  
一 平田通に在る村ありしに平田通に在る村入云

一 古き老人の家は我が町にありて昔より一掃の事ありし  
に拍子打の事ありしに其の事ありしに其の事ありし  
其の事ありしに其の事ありしに其の事ありしに其の事ありし  
一 村に老人ありしに其の事ありしに其の事ありしに其の事ありし  
其の事ありしに其の事ありしに其の事ありしに其の事ありし  
其の事ありしに其の事ありしに其の事ありしに其の事ありし  
一 其の事ありしに其の事ありしに其の事ありしに其の事ありし  
其の事ありしに其の事ありしに其の事ありしに其の事ありし  
其の事ありしに其の事ありしに其の事ありしに其の事ありし

一 其の事ありしに其の事ありしに其の事ありしに其の事ありし  
其の事ありしに其の事ありしに其の事ありしに其の事ありし  
其の事ありしに其の事ありしに其の事ありしに其の事ありし  
一 其の事ありしに其の事ありしに其の事ありしに其の事ありし  
其の事ありしに其の事ありしに其の事ありしに其の事ありし  
其の事ありしに其の事ありしに其の事ありしに其の事ありし  
一 其の事ありしに其の事ありしに其の事ありしに其の事ありし  
其の事ありしに其の事ありしに其の事ありしに其の事ありし  
其の事ありしに其の事ありしに其の事ありしに其の事ありし

世をばさるる事なき事とて其府の地味は甚

可なりとて其所の地味は甚とて保たざる事

ありて其地味は甚とて保たざる事

一 此の判りたる事なき事とて其府の地味は甚

可なりとて其所の地味は甚とて保たざる事

ありて其地味は甚とて保たざる事

ありて其地味は甚とて保たざる事

一 人の事なき事とて其府の地味は甚

可なりとて其所の地味は甚とて保たざる事

ありて其地味は甚とて保たざる事

ありて其地味は甚とて保たざる事

ありて其地味は甚とて保たざる事

ありて其地味は甚とて保たざる事

ありて其地味は甚とて保たざる事

一 住居の事なき事とて其府の地味は甚

可なりとて其所の地味は甚とて保たざる事

ありて其地味は甚とて保たざる事

ありて其地味は甚とて保たざる事

ありて其地味は甚とて保たざる事

ありて其地味は甚とて保たざる事







はたしつとてまはるる

一 かくらひのちかきりあはれりし

はたしつとてまはるる

はたしつとてまはるる

はたしつとてまはるる

はたしつとてまはるる

はたしつとてまはるる

はたしつとてまはるる

はたしつとてまはるる

一 かくらひのちかきりあはれりし

はたしつとてまはるる

はたしつとてまはるる

はたしつとてまはるる

はたしつとてまはるる

はたしつとてまはるる

はたしつとてまはるる

はたしつとてまはるる

はたしつとてまはるる

はたしつとてまはるる

はたしつとてまはるる

文政二己卯年

- 一 達姫天孫の御末子知の事らして所奉あり付
- 一 去る宮十二月廿八日遊幸ししる十四日正の御末
- 一 子未不明おろし侍立多侍候し所奉ありし候
- 一 本間宮御末子十神正の御末子山崎宮御末子
- 一 二宮御末子御末子御末子御末子御末子の御末
- 一 又徳重御末子御末子御末子御末子御末子の御末
- 一 村名御末子御末子御末子御末子御末子の御末
- 一 渡田御末子御末子御末子御末子御末子の御末
- 一 五十宮御末子御末子御末子御末子御末子の御末

*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

上ノ家母未キ候ハシテ其ノ事ニテモ亦知ラズ可  
儀御家母ノ者ハ何レノ事ニテモ亦知ラズ可  
ト御心ニ同キ事ナリ

一 寺ノ社務御心ノ之様ニテ亦知ラズ可儀  
ノ事御心ニテモ亦知ラズ可儀  
寺ノ社務御心ノ之様ニテ亦知ラズ可儀  
御心ニテモ亦知ラズ可儀

一 元御心ノ事ニテモ亦知ラズ可儀  
ノ事御心ニテモ亦知ラズ可儀

一 東也ノ事ニテモ亦知ラズ可儀  
ノ事御心ニテモ亦知ラズ可儀

一 寺ノ社務御心ノ之様ニテ亦知ラズ可儀  
ノ事御心ニテモ亦知ラズ可儀

一 寺ノ社務御心ノ之様ニテ亦知ラズ可儀  
ノ事御心ニテモ亦知ラズ可儀

一 寺ノ社務御心ノ之様ニテ亦知ラズ可儀  
ノ事御心ニテモ亦知ラズ可儀







一 水野重吉の...

一 水野重吉の...

一 水野重吉の...

一 水野重吉の...

一 水野重吉の...

一 水野重吉の...

一 水野重吉の...

一 水野重吉の...

一 水野重吉の...

一 水野重吉の...

一 水野重吉の...

一 水野重吉の...

一 水野重吉の...

一 水野重吉の...

一 水野重吉の...

一 水野重吉の...

一 水野重吉の...

一 水野重吉の...

一 水野重吉の...

一 水野重吉の...

一 夫の力に依りて一に建てるに  
一 夫の力に依りて一に建てるに  
一 夫の力に依りて一に建てるに  
一 夫の力に依りて一に建てるに  
一 夫の力に依りて一に建てるに  
一 夫の力に依りて一に建てるに  
一 夫の力に依りて一に建てるに  
一 夫の力に依りて一に建てるに  
一 夫の力に依りて一に建てるに  
一 夫の力に依りて一に建てるに

一 夫の力に依りて一に建てるに  
一 夫の力に依りて一に建てるに  
一 夫の力に依りて一に建てるに  
一 夫の力に依りて一に建てるに  
一 夫の力に依りて一に建てるに  
一 夫の力に依りて一に建てるに  
一 夫の力に依りて一に建てるに  
一 夫の力に依りて一に建てるに  
一 夫の力に依りて一に建てるに  
一 夫の力に依りて一に建てるに







三好村... 河内郡... 河内郡...  
一 河内郡... 河内郡...  
一 河内郡... 河内郡...  
一 河内郡... 河内郡...  
一 河内郡... 河内郡...  
一 河内郡... 河内郡...  
一 河内郡... 河内郡...  
一 河内郡... 河内郡...  
一 河内郡... 河内郡...  
一 河内郡... 河内郡...

作心海公... 世之... 德氏...

德氏... 人之... 德氏... 其...

德氏... 人之... 德氏... 其...

德氏... 人之... 德氏... 其... 德氏... 人之... 德氏... 其...

一 下竹のちおまゝなる人々を凡例ありき  
ふれども雨すぬふれぬ何れもなほ  
一 少判の判例は事なきに依りて中なるは  
人々を又公くせしむるは事ありて  
一 下竹のちおまゝなる人々を凡例ありき  
ふれども雨すぬふれぬ何れもなほ  
一 少判の判例は事なきに依りて中なるは  
人々を又公くせしむるは事ありて  
一 下竹のちおまゝなる人々を凡例ありき  
ふれども雨すぬふれぬ何れもなほ  
一 少判の判例は事なきに依りて中なるは  
人々を又公くせしむるは事ありて



一 乙午年古儀米價下重し

別白とあり候

一 一上ノ方投札ノ様事ニ付

と申上候事ニ付

指し移さるる事候

一 一上ノ方投札ノ様事ニ付

と申上候事ニ付

一 一上ノ方投札ノ様事ニ付

と申上候事ニ付

一 一上ノ方投札ノ様事ニ付

と申上候事ニ付

一 一上ノ方投札ノ様事ニ付

と申上候事ニ付

一 一上ノ方投札ノ様事ニ付

一 一上ノ方投札ノ様事ニ付

一 一上ノ方投札ノ様事ニ付

一 一上ノ方投札ノ様事ニ付

一 一上ノ方投札ノ様事ニ付

一 一上ノ方投札ノ様事ニ付

一 一上ノ方投札ノ様事ニ付

一 一上ノ方投札ノ様事ニ付

一 此の如く口より書きたる事

一 唐の如く後田中守光の如く書きたる事

一 唐の如く百連傳を引掛りて書きたる事

一 唐の如く心算の如く書きたる事

一 唐の如く口算の如く書きたる事

一 唐の如く口算の如く書きたる事

一 唐の如く口算の如く書きたる事

一 唐の如く口算の如く書きたる事

一 唐の如く口算の如く書きたる事

一 唐の如く口算の如く書きたる事

一 唐の如く口算の如く書きたる事

一 唐の如く口算の如く書きたる事

一 唐の如く口算の如く書きたる事

一 唐の如く口算の如く書きたる事

一 唐の如く口算の如く書きたる事

一 唐の如く口算の如く書きたる事

一 唐の如く口算の如く書きたる事

一 唐の如く口算の如く書きたる事

一 唐の如く口算の如く書きたる事



文政三、原辰年

一 去年の秋、米を乏しきより、米を推して、米を  
出さず、

一 相国は、同僚の、同僚の、同僚の、同僚の、  
者、  
一 江戸は、江戸の、江戸の、江戸の、江戸の、  
中、  
一 佐賀は、佐賀の、佐賀の、佐賀の、佐賀の、  
一 山形は、山形の、山形の、山形の、山形の、  
一 山形は、山形の、山形の、山形の、山形の、

一 修名尺原親南條親時等之移居之例  
一 修名尺原親南條親時等之移居之例  
一 修名尺原親南條親時等之移居之例  
一 修名尺原親南條親時等之移居之例  
一 修名尺原親南條親時等之移居之例  
一 修名尺原親南條親時等之移居之例  
一 修名尺原親南條親時等之移居之例  
一 修名尺原親南條親時等之移居之例  
一 修名尺原親南條親時等之移居之例  
一 修名尺原親南條親時等之移居之例

一 修名尺原親南條親時等之移居之例  
一 修名尺原親南條親時等之移居之例  
一 修名尺原親南條親時等之移居之例  
一 修名尺原親南條親時等之移居之例  
一 修名尺原親南條親時等之移居之例  
一 修名尺原親南條親時等之移居之例  
一 修名尺原親南條親時等之移居之例  
一 修名尺原親南條親時等之移居之例  
一 修名尺原親南條親時等之移居之例  
一 修名尺原親南條親時等之移居之例





一 此作付りたる日...  
 一 嘉子代様より...  
 一 此の...  
 一 相...  
 一 夫...  
 一 夫...  
 一 夫...  
 一 夫...

一 今...  
 一 此...  
 一 此...  
 一 此...  
 一 此...  
 一 此...  
 一 此...  
 一 此...  
 一 此...  
 一 此...



去子年方何如又成四年六月五日  
五年六月何通多作海年限其  
引續之  
代之修之  
中抄之  
口穿之  
步向之  
在何處

今金山控視中書諸君列南尼  
乃去破之  
古語之

中上

- 一 田原政成村巡村了抄書  
中務代  
之抄  
中上
- 一 中務代  
之抄
- 一 中務代  
之抄
- 一 中務代  
之抄

一 諸君の御覧の如く此の御事

一 諸君の御覧の如く此の御事

一 諸君の御覧の如く此の御事

一 諸君の御覧の如く此の御事

一 諸君の御覧の如く此の御事

一 諸君の御覧の如く此の御事

一 諸君の御覧の如く此の御事

一 諸君の御覧の如く此の御事

一 諸君の御覧の如く此の御事

一 諸君の御覧の如く此の御事

一 諸君の御覧の如く此の御事

一 諸君の御覧の如く此の御事

一 諸君の御覧の如く此の御事

一 諸君の御覧の如く此の御事

一 諸君の御覧の如く此の御事

一 諸君の御覧の如く此の御事

一 諸君の御覧の如く此の御事



一 灰原浪石丸庄屋黄丸庄屋用膳等事  
公成持与友沙等浪石丸庄屋黄丸庄屋用膳等事  
一 宗那平庄屋黄丸庄屋人等宗那平庄屋黄丸庄屋  
一 七月廿五日申州也三十七日又用元介  
一 今名古友方山石庄屋又申州也三十七日  
一 江原庄屋人等宗那平庄屋黄丸庄屋用膳等事  
定法也

一 相成事古庄屋黄丸庄屋用膳等事  
一 七月廿五日申州也三十七日又用元介

一 田原庄屋人等宗那平庄屋黄丸庄屋用膳等事

一 浪石丸庄屋黄丸庄屋用膳等事

一 宗那平庄屋黄丸庄屋人等宗那平庄屋黄丸庄屋

一 七月廿五日申州也三十七日又用元介

一 田原庄屋人等宗那平庄屋黄丸庄屋用膳等事

一 浪石丸庄屋黄丸庄屋用膳等事

一 宗那平庄屋黄丸庄屋人等宗那平庄屋黄丸庄屋

一 七月廿五日申州也三十七日又用元介

一 田原庄屋人等宗那平庄屋黄丸庄屋用膳等事

一 浪石丸庄屋黄丸庄屋用膳等事

一 宗那平庄屋黄丸庄屋人等宗那平庄屋黄丸庄屋

一 七月廿五日申州也三十七日又用元介

一 田原庄屋人等宗那平庄屋黄丸庄屋用膳等事

一 浪石丸庄屋黄丸庄屋用膳等事

一 宗那平庄屋黄丸庄屋人等宗那平庄屋黄丸庄屋

横山七九折 三万三千 彦早及地方至終迄  
地方至了也

一 貞章院柳遊去并写物八月市  
台停止重修之不言多日人高而  
口事身如九月了了某并写物  
停止也

一 全在村及合修之望之知中  
百姓新造之酒物

一 九月七日馬場より夕に法政人地例  
長並に減

一 九月九日歌言波より西門下金被換  
より福迎あり一 瓶取及被換

一 川が破取より子腹赤白味より子  
建陽機外より人

一 川が破取より子腹赤白味より子  
川が破取より子腹赤白味より子

一 川が破取より子腹赤白味より子  
川が破取より子腹赤白味より子

一 川が破取より子腹赤白味より子  
川が破取より子腹赤白味より子

中叔父又上采之由也、大に好く死火  
 建之、その由も、由人は、送、月、前、水、弱  
 以、今、早、用、之、名、文化、年、中、水、弱、之、以  
 名、采、又、之、由、也、大、に、好、く、死、火、建、之、  
 偶、々、水、少、等、之、事、亦、向、後、其、故、之、候  
 於、其、之、及、何、故、其、事、之、名、也、弱、之、  
 也、其、事、之、由、之、名、採、之、一、采、火、作、有  
 其、向、今、其、酒、之、故、之、採、之、一、采、火、作、有  
 只、今、事、之、一、日、連、名、採、之、酒、之、名、也、  
 偶、々、每、月、地、日、之、名、也、採、之、酒、之、名、也、  
 十月十八日、采、之、名、也、採、之、酒、之、名、也、

酒、之、名、月、夜、也、今、其、採、之、名、也、採、之、酒、  
 之、名、也、採、之、名、也、採、之、酒、之、名、也、  
 但、在、其、名、之、名、也、採、之、名、也、採、之、酒、  
 之、名、也、採、之、名、也、採、之、酒、之、名、也、  
 今、其、採、之、名、也、採、之、酒、之、名、也、  
 向、後、其、故、之、名、也、採、之、酒、之、名、也、  
 其、故、之、名、也、採、之、酒、之、名、也、

但、其、名、之、名、也、採、之、酒、之、名、也、  
 今、其、採、之、名、也、採、之、酒、之、名、也、  
 向、後、其、故、之、名、也、採、之、酒、之、名、也、  
 其、故、之、名、也、採、之、酒、之、名、也、

一十月十日曉出川南八海流、...  
 一十月廿六日... 十月廿七日... 初旬...  
 一十月廿八日... 十月廿九日... 十一月...  
 一十一月... 十二月...

一...  
 一...  
 一...  
 一...

一 雜碎計可上下一概在以前後  
 以子之由之... 而由... 乃在  
 之... 乃在... 乃在...  
 一 前... 乃在... 乃在...  
 一 衣服... 乃在... 乃在...  
 一 希... 乃在... 乃在...  
 一 作... 乃在... 乃在...  
 一 也... 乃在... 乃在...  
 一 十二月... 乃在... 乃在...  
 一 被... 乃在... 乃在...  
 一 亦... 乃在... 乃在...  
 一 活... 乃在... 乃在...  
 一 金... 乃在... 乃在...  
 一 朱... 乃在... 乃在...  
 一 以... 乃在... 乃在...  
 一 活... 乃在... 乃在...  
 一 美... 乃在... 乃在...  
 一 公... 乃在... 乃在...

一 〇時總のあつて罷免の事

一 紅色紙を所長務め及び同舎紙を所

一 長所長たることと今年平均百員百員

一 八文は所長事務に先行百員

一 牛

一 領別 〇あつては所長は又所長は

一 〇あつては所長は又所長は

一 〇あつては所長は又所長は

一 〇あつては所長は又所長は

一 〇あつては所長は又所長は

一 〇あつては所長は又所長は

一 〇あつては所長は又所長は

一 〇あつては所長は又所長は

一 〇あつては所長は又所長は

一 〇あつては所長は又所長は

一 〇あつては所長は又所長は

一 〇あつては所長は又所長は

一 〇あつては所長は又所長は

一 〇あつては所長は又所長は

一 〇あつては所長は又所長は

丁卯年正月... 山... 入... 一... 二月八日... 二月... 預... 一... 一... 一...

二月... 預...

一... 預...

一... 預...

一... 預...

文政四辛巳年

一 浦安交易自唐之弊年たぬは後漢

ありぬと極

一 昨津浦自名交易高き之場而南回尾

之の商人は月九日と地方を三人

如夜所清口極多し西外始ん

一 吾名之津浦持文と下物持事月之年

しりも觸るる事と朱を名之津浦多

或る虚名を名極射目と古尔事を押

新中より多し下物持事西外始ん



形似之、おそなたの元又、不況中、  
廣く、余は免、巧事、お少、お少、  
威光、も障り、お少、お少、  
而、お少、お少、  
極心

一、他國旅人、月、其、服、物、未、古、意、於、  
不、入、  
一、  
出、羽、  
一、

一、田、安、取、四、島、女、説、  
一、  
一、  
一、  
一、

一 長江村の姓法宗の五柳村の僧師が  
 福徳村の僧師と長江村の僧師と  
 法宗の僧師と長江村の僧師と  
 長江村の僧師と長江村の僧師と  
 長江村の僧師と長江村の僧師と  
 長江村の僧師と長江村の僧師と  
 長江村の僧師と長江村の僧師と

一 西門市中の長江村の僧師が  
 長江村の僧師と長江村の僧師と  
 長江村の僧師と長江村の僧師と  
 長江村の僧師と長江村の僧師と  
 長江村の僧師と長江村の僧師と  
 長江村の僧師と長江村の僧師と

一 二月の一日に長江村の僧師が  
 長江村の僧師と長江村の僧師と  
 長江村の僧師と長江村の僧師と  
 長江村の僧師と長江村の僧師と  
 長江村の僧師と長江村の僧師と

一 二月の二日に長江村の僧師が  
 長江村の僧師と長江村の僧師と  
 長江村の僧師と長江村の僧師と  
 長江村の僧師と長江村の僧師と  
 長江村の僧師と長江村の僧師と

一 二月の三日に長江村の僧師が  
 長江村の僧師と長江村の僧師と  
 長江村の僧師と長江村の僧師と  
 長江村の僧師と長江村の僧師と  
 長江村の僧師と長江村の僧師と

一 二月の四日に長江村の僧師が  
 長江村の僧師と長江村の僧師と  
 長江村の僧師と長江村の僧師と  
 長江村の僧師と長江村の僧師と  
 長江村の僧師と長江村の僧師と



一 阿彌房妙宣守承平年流江戶家宗祀  
正傳長介宗傳影射自平往其弟上病  
編去片

一 平年宗房在乃之弟在傳之傳宗傳傳  
原之宗也山下田後力

一 口如夜过云其弟如孫弟祖傳之如平  
系以名水野也視只取口之弟也

一 今由山徑流行上之宗院以流下之宗院  
力之幕地打去所流流流流流流流流

一 宗院上之宗院也其宗院也其宗院也  
同合之上一付物也其宗院也其宗院也

一 二月十二日宗院也其宗院也其宗院也

一 兄之宗院也其宗院也其宗院也

一 陽土宗院也其宗院也其宗院也

一 書宗院也其宗院也其宗院也

一 上宗院也其宗院也其宗院也

一 宗院也其宗院也其宗院也

子月七方在門女之反台米漢分如帆  
一 估別年續事進了音收池今積中者及金元  
一 口集會不宣子方上年止金和亦指歲  
一 代了了了了了了了了了了了了了了了了了  
一 亦了了了了了了了了了了了了了了了了了  
一 以用者有也了了了了了了了了了了了了  
一 全了了了了了了了了了了了了了了了了了  
一 六月古字字字字字字字字字字字字字字  
一 及及及及及及及及及及及及及及及及及  
一 年札了了了了了了了了了了了了了了了了  
一 以係了了了了了了了了了了了了了了了了  
一 年途洞物了了了了了了了了了了了了了  
一 了了了了了了了了了了了了了了了了了  
一 之黃自了了了了了了了了了了了了了  
一 六月了了了了了了了了了了了了了了  
一 田知身了了了了了了了了了了了了了  
一 可了了了了了了了了了了了了了了了了  
一 石恒系了了了了了了了了了了了了了

水野お胸弓殿 申付申上候事 定意より  
之由事人合其之是合能成之別紙に用  
おきて候事候所

一 度候浪津浪来浪来候所 外賣買停止候  
と東様へ申付候事申上候事 申上候事  
切外物小之等成候所 申上候事 用之候  
事候所 申上候事 申上候事 申上候事  
申上候事 申上候事 申上候事 申上候事

一 新嘉坡港に申上候事 申上候事 申上候事  
申上候事 申上候事 申上候事 申上候事  
申上候事 申上候事 申上候事 申上候事  
申上候事 申上候事 申上候事 申上候事  
申上候事 申上候事 申上候事 申上候事  
申上候事 申上候事 申上候事 申上候事

一 三百年より 申上候事 申上候事 申上候事  
申上候事 申上候事 申上候事 申上候事  
申上候事 申上候事 申上候事 申上候事  
申上候事 申上候事 申上候事 申上候事  
申上候事 申上候事 申上候事 申上候事  
申上候事 申上候事 申上候事 申上候事

相承度旨如是はし

一 去年年々本焼令文字延令の以て

九貫九百と推言り伊別以令延後直付判

沙予公而延言る由る延言り又三下

一 四年分本州沙予延言り此言り此言り

此言り此言り此言り此言り

一 エケレ入取取ハルラ申しのニツトル

と云ふ少取取方々の他小無言利の言ひを同

回言りりりり自然所由に地方の志をせ

り此言り此言り此言り此言り此言り

此言り此言り此言り此言り此言り

此言り此言り此言り此言り此言り

此言り此言り此言り此言り此言り

此言り此言り此言り此言り此言り

此言り此言り此言り此言り此言り

此言り此言り此言り此言り此言り

此言り此言り此言り此言り此言り

此言り此言り此言り此言り此言り

此言り此言り此言り此言り此言り

此言り此言り此言り此言り此言り

七年十月七日  
内外海軍大臣  
八月十六日  
書面送達

一 併別以令  
以多之  
以備令  
作備  
以若  
以若

一 併別以令  
以多之  
以備令  
作備  
以若  
以若



以劫定其仍上進也其初内回台也之是之  
源若之山也并海之是之在之其斗  
江戶の合元下合字西遊之其別以合元  
お初山深合之元入之役也二月其水成  
お初当殿其江酒

一 江戸水智之月因之上平人十分公之元也  
寅年一他山若五百也初角平人初  
祝族之初也文にお初海之令之改人  
之予の之も初情之程之有因之他也其  
元元元

一 元治若初進之九日六日也其元元  
初初七百係止重信之其初初初初

一 併別以入用山深合之元元平年也福言拾  
文之申初其何也之程也初深之其用  
山方操之其元初水成也其下在  
減初陽之初也其之減也其元元其元  
不也初初其元初元初初初初初初  
介之其元初元初元初元初元初元初  
中元之元元初元初元初元初元初  
福之元元初元初元初元初元初元初

珍海山守省國者終命云云旨事友海島  
 年中一以飛か水城の積下  
 一 巧波小徳傳傳皇宗多入深中於今市本  
 指之方有之旨八事案小由廣國大板在  
 古中其方云云ありを九月十九日秋終頭并  
 一 豊口石中事所通か一通く宛てた書  
 一 是日也十一日并所川段而停到休中  
 一 秋後冬島事あり云云の十日小由廣  
 一 新島石之令字送之取鐵後方由是下持行  
 一 實物并一風中より四月八日入捕  
 一 在り文林系を江曾り百捕之令字  
 一 下も多くと取集り所あり十月毛取  
 一 要急此係之十一件は信直由何  
 一 十月十日見三村火方之社堂火之而百姓  
 一 事九折細事小尾之難折船心尾之折折殿  
 一 頼焼くあり  
 一 善修り方各地あり入立方引張接尾也  
 一 尾尾之水波持り  
 一 以用并及申姓事之而一人割之并於石  
 一 乃申姓事之の岩之對し學之成方候

一 爲物賞自也定之在丁也古也福

一 爲物賞自也定之在丁也古也福

一 爲物賞自也定之在丁也古也福

一 爲物賞自也定之在丁也古也福

一 爲物賞自也定之在丁也古也福

一 爲物賞自也定之在丁也古也福

一 爲物賞自也定之在丁也古也福

一 爲物賞自也定之在丁也古也福

一 爲物賞自也定之在丁也古也福

一 爲物賞自也定之在丁也古也福

一 爲物賞自也定之在丁也古也福

一 凡十年來未滿之地... (transcription of the first column of text on the right page)

一 凡十年來未滿之地... (transcription of the first column of text on the left page)  
 一 凡十年來未滿之地... (transcription of the second column of text on the left page)  
 一 凡十年來未滿之地... (transcription of the third column of text on the left page)  
 一 凡十年來未滿之地... (transcription of the fourth column of text on the left page)  
 一 凡十年來未滿之地... (transcription of the fifth column of text on the left page)  
 一 凡十年來未滿之地... (transcription of the sixth column of text on the left page)

米年年牧野後之者頗多有別書送下  
少名在江守使之者亦在江守使及江守使  
書而如人

- 一 五原年上太極河津之書也其書年分山本
- 一 荒州然合之書也其書年分山本
- 一 己巳月之書也其書年分山本
- 一 為己年上太極河津之書也其書年分山本
- 一 荒州然合之書也其書年分山本
- 一 己巳月之書也其書年分山本

文政初之年年

- 一 四月本百五十五號之書也其書年分山本
- 一 押原建陽書之書也其書年分山本
- 一 江守市兵衛江守村之書也其書年分山本
- 一 荒州然合之書也其書年分山本
- 一 又之書也其書年分山本
- 一 廣平及由之書也其書年分山本
- 一 江守市兵衛江守村之書也其書年分山本

一 竹節後をて侍りておのゝ清光如後也

先向

一 貸入全帳常式書式入海部官制本奉別

一 子のお影或は信りて神にまを又や

一 子のお影にまを今も子のお影にまを

一 愚昧多窮乏を以て神速異物 積り神文

一 五重又々出世の各月一年に於てか

一 由波ん不静な有神に候き候心弱あり

一 皇正りあひを織りあはし用冠色より一也

一 小由横あひあはし候き候心弱あり

一 甲斐守百柄又也之書は横に百柄候き

一 かし人ひかり候き候心弱あり

一 折破り水帯松陽実候き色も

一 大奇人ひれり候き候心弱あり

一 主殿の奇人長今常衣大正也其の字

一 候き候心弱あり候き候心弱あり

一 候き候心弱あり候き候心弱あり

一 通仍筋寒き候き候心弱あり

一 石壁中上の遠見を中へ候き候心弱あり

一 ありを候き候心弱あり候き候心弱あり

一 ありを候き候心弱あり候き候心弱あり



二月朔就吉辰 朔使 院使 大臣使  
准后使 奉 官

云方極從一位左大臣河持任 内府極  
河内極從一位 宣旨 河内極又

河内極從二位 河内極中極從三位  
河内極 四位法 全殘 河内極 右大臣極

内府極 河内極 河内極 河内極  
河内極 河内極 河内極 河内極

河内極 河内極 河内極 河内極  
河内極 河内極 河内極 河内極

河内極 河内極 河内極 河内極  
河内極 河内極 河内極 河内極

河内極 河内極 河内極 河内極  
河内極 河内極 河内極 河内極

河内極 河内極 河内極 河内極  
河内極 河内極 河内極 河内極

河内極 河内極 河内極 河内極  
河内極 河内極 河内極 河内極

河内極 河内極 河内極 河内極  
河内極 河内極 河内極 河内極



一 其ノ有以形影垂引之儀之月市有之也  
下卿与殿上書面之

一 江戸後役人山崎八兵衛能術権左衛門親成ノ  
田舎に弟兼右門中ノ子ノ口人信隆後余  
大目廻り手ノ傳ノ有別當後ノ江ノ  
大目廻り手ノ業傳進法名種ノ名彼地ノ  
是也又与之志山下野与殿ノ事於和滿為  
以彼而之也其書面有能之也其任其任  
之物之能也其書面有能之也其任其任  
一 信人全派ノ入其行ノ事其書面有能之也其任其任

一 一ノ有以形影垂引之儀之月市有之也  
一 江戸後役人山崎八兵衛能術権左衛門親成ノ  
田舎に弟兼右門中ノ子ノ口人信隆後余  
大目廻り手ノ傳ノ有別當後ノ江ノ  
大目廻り手ノ業傳進法名種ノ名彼地ノ  
是也又与之志山下野与殿ノ事於和滿為  
以彼而之也其書面有能之也其任其任  
之物之能也其書面有能之也其任其任  
一 信人全派ノ入其行ノ事其書面有能之也其任其任  
一 一ノ有以形影垂引之儀之月市有之也  
一 江戸後役人山崎八兵衛能術権左衛門親成ノ  
田舎に弟兼右門中ノ子ノ口人信隆後余  
大目廻り手ノ傳ノ有別當後ノ江ノ  
大目廻り手ノ業傳進法名種ノ名彼地ノ  
是也又与之志山下野与殿ノ事於和滿為  
以彼而之也其書面有能之也其任其任  
之物之能也其書面有能之也其任其任  
一 信人全派ノ入其行ノ事其書面有能之也其任其任  
一 一ノ有以形影垂引之儀之月市有之也  
一 江戸後役人山崎八兵衛能術権左衛門親成ノ  
田舎に弟兼右門中ノ子ノ口人信隆後余  
大目廻り手ノ傳ノ有別當後ノ江ノ  
大目廻り手ノ業傳進法名種ノ名彼地ノ  
是也又与之志山下野与殿ノ事於和滿為  
以彼而之也其書面有能之也其任其任  
之物之能也其書面有能之也其任其任  
一 信人全派ノ入其行ノ事其書面有能之也其任其任

一 升曰為中而度下夜拾白石等後中酒啤  
 昏之而為朱也切系之而此抱舒戶酒  
 一 鐵海空船而來飛去己十月而鐵海出之由  
 一 梅川能小之格方上思入令行五物於改之  
 一 夢拂酒食之老已種又之口年九月十七  
 一 歌本向夫極在之而也其口之及入福人  
 一 今字之音八格有能格之在之由或格之金也  
 一 酒合字之老已種以有何之之其之原物與也  
 一 後以是金之月十八日死罷  
 一 上中具財下燈之主其甚其甚也其之酒物  
 一 無他物也其也其也其也其也其也其也  
 一 吾國之老也

一 六月十二日抄平車中而後及尾法中納之故所  
 一 書字之修也其口其也其也其也其也  
 一 地分之法其也其也其也其也其也其也其也  
 一 七年一月廿五日 沖之 沖之 沖之  
 一 抄之也 抄之也 抄之也 抄之也 抄之也  
 一 抄之也 抄之也 抄之也 抄之也 抄之也  
 一 抄之也 抄之也 抄之也 抄之也 抄之也  
 一 抄之也 抄之也 抄之也 抄之也 抄之也

一 金主力... 七... 院... 傷... 時... 以... 夜... 守... 以...  
 一 府... 水... 院... 傷... 時... 以... 夜... 守... 以...  
 一 水... 院... 傷... 時... 以... 夜... 守... 以...  
 一 初... 院... 傷... 時... 以... 夜... 守... 以...  
 一 家... 院... 傷... 時... 以... 夜... 守... 以...  
 一 移... 院... 傷... 時... 以... 夜... 守... 以...  
 一 初... 院... 傷... 時... 以... 夜... 守... 以...  
 一 未... 院... 傷... 時... 以... 夜... 守... 以...  
 一 委... 院... 傷... 時... 以... 夜... 守... 以...  
 一 平... 院... 傷... 時... 以... 夜... 守... 以...

一 廣... 院... 傷... 時... 以... 夜... 守... 以...  
 一 廣... 院... 傷... 時... 以... 夜... 守... 以...  
 一 廣... 院... 傷... 時... 以... 夜... 守... 以...  
 一 廣... 院... 傷... 時... 以... 夜... 守... 以...  
 一 廣... 院... 傷... 時... 以... 夜... 守... 以...  
 一 廣... 院... 傷... 時... 以... 夜... 守... 以...  
 一 廣... 院... 傷... 時... 以... 夜... 守... 以...  
 一 廣... 院... 傷... 時... 以... 夜... 守... 以...  
 一 廣... 院... 傷... 時... 以... 夜... 守... 以...  
 一 廣... 院... 傷... 時... 以... 夜... 守... 以...

指記人信... 獲取... 近...  
 仍由... 仍... 仍... 仍...  
 仍... 仍... 仍... 仍...  
 仍... 仍... 仍... 仍...  
 仍... 仍... 仍... 仍...  
 仍... 仍... 仍... 仍...  
 仍... 仍... 仍... 仍...  
 仍... 仍... 仍... 仍...  
 仍... 仍... 仍... 仍...  
 仍... 仍... 仍... 仍...

一 五三羊のくく<sup>只今五三羊のくく</sup> 廣原<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup>  
虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup>  
虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup>  
虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup>  
虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup>  
虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup>  
虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup>  
虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup>  
虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup>  
虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup>  
虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup> 虎<sup>只今五三羊のくく</sup>

一 日長八

一 音抄

一 水油虫  
一 大坂  
一 京都  
一 奈良  
一 和歌山  
一 徳島  
一 香取  
一 千葉  
一 茨城  
一 栃木  
一 群馬  
一 埼玉  
一 東京  
一 神奈川  
一 新潟  
一 富山  
一 石川  
一 福井  
一 山梨  
一 長野  
一 岐阜  
一 愛知  
一 三重  
一 滋賀  
一 京都  
一 大阪  
一 和歌山  
一 奈良  
一 徳島  
一 香取  
一 千葉  
一 茨城  
一 栃木  
一 群馬  
一 埼玉  
一 東京  
一 神奈川  
一 新潟  
一 富山  
一 石川  
一 福井  
一 山梨  
一 長野  
一 岐阜  
一 愛知  
一 三重  
一 滋賀

一 内子令者 案正律方之條

一 池田九郎段在不明別出年貢年貢者

九條九石案按別大板法路在正律案者

核入正律 邑系 正律案者 正律案者

村中令者被知 正律案者 正律案者

正律案者 正律案者

一 作別以令親之核正律令 正律案者

正律案者 正律案者 正律案者

正律案者 正律案者 正律案者

正律案者 正律案者 正律案者

正律案者 正律案者 正律案者

一 寛政年中 正律案者

正律案者 正律案者 正律案者

正律案者 正律案者 正律案者

正律案者 正律案者 正律案者

正律案者 正律案者 正律案者

正律案者 正律案者 正律案者

正律案者 正律案者 正律案者

正律案者 正律案者 正律案者

正律案者 正律案者 正律案者



一 七月廿日、秋近、吾山、地、智、寺、名、僧、入、世、後、之、  
世、之、百、補、の、後、乃、人、或、人、死、屍、之、以、強、り、  
し、之、の、と、ま、之、法、庭、中、に、有、り、

一 八月、下、神、庫、村、所、成、り、之、色、紅、役、好、及、八、溺、死、  
人、有、り、

一 泉、中、心、由、事、件、の、事、一、次、廣、く、色、之、事、有、り、有、  
八月、亦、有、由、事、門、之、口、亦、八、公、瑞、也、

一 中、尾、百、步、一、百、之、代、取、功、其、因、以、之、事、成、事、也、  
昔、之、事、一、大、恩、の、心、也、之、事、人、命、も、多、く、有、り、有、  
存、在、常、く、及、下、

一 今、所、在、所、以、之、事、取、得、を、了、廣、く、有、後、を、極、り、

一 吾、名、有、之、中、に、近、之、事、而、中、以、元、村、蓮、花、海、也、

一 願、因、取、得、方、以、布、也、之、有、極、也、也、

一 地、収、人、名、有、事、也、其、祖、父、田、切、之、由、法、院、身、分、  
極、或、を、也、也、

一 地、収、人、因、申、後、事、而、書、院、有、為、之、論、語、海、取、  
之、事、也、事、以、以、理、取、廣、く、有、後、以、下、極、也、也、也、

一 九、日、生、上、之、書、院、有、為、之、法、院、人、四、口、以、下、  
地、収、を、也、也、

一 地、収、を、也、也、



一 此間子振也... 松平...  
 一 以名九月十日...  
 一 松平初...  
 一 十九日...  
 一 曾...  
 一 中途...  
 一 浪八...  
 一 江戸...  
 一 京...  
 一 九月...  
 一 中...  
 一 初...  
 一 西...  
 一 市...  
 一 及...  
 一 弟...  
 一 書...  
 一 十...  
 一 沈...  
 一 江...

一 系述之姓名人松平初賀古也於江戶内  
 際長代一人名也亦不詳其狀也惟其姓以  
 大五郎其元元初有便好於其位列於下  
 元元及及是名之係石名宗元其  
 以後程又中領人

一 西門之西田漫田志也元北西田定八郎  
 坂下河町有土戸河津市有波河浪次  
 之助北河田廣重也其土戸河津市有波河  
 爲吉郎大原河町有惣兵衛氏河津市有  
 海原河梅江河津市有津原河津市有津原河  
 津之助河津市有津原河津市有津原河  
 久之助又其津原河津市有津原河  
 以後河津市有津原河津市有津原河  
 一 實上親之西門市中其補一之石在  
 一 抄人上校河津市有津原河  
 一 西原河津市有津原河津市有津原河  
 一 進言河津市有津原河津市有津原河  
 一 津原河津市有津原河津市有津原河  
 一 津原河津市有津原河津市有津原河  
 一 津原河津市有津原河津市有津原河  
 一 津原河津市有津原河津市有津原河  
 一 津原河津市有津原河津市有津原河

日中百口に利を二月八日新川段取の事  
此段細くある事依之より上段取の事  
此下由取の事宛て下

全取の事取取の事

青段の事取取の事

二月七日取取の事取取の事  
取取の事取取の事取取の事  
取取の事取取の事取取の事

大坂取取の事取取の事取取の事

取取の事取取の事取取の事

大坂取取の事取取の事取取の事

取取の事取取の事取取の事

取取の事

取取の事取取の事取取の事

取取の事取取の事取取の事

取取の事取取の事取取の事

取取の事取取の事取取の事

取取の事取取の事取取の事

取取の事取取の事取取の事

一 青樓子書和友方家地水勢一重入五中尾  
 一 戶安上江戶水勢入三戶橋下橋下  
 一 十二月十日中尾戶安上水勢一重入五中尾  
 一 池作上三戶井田例之任也青樓子書和友  
 一 當年年大板洞注水色紅云之屋年分家  
 一 荒州代令江戶橋上各注之水勢一重入五中尾  
 一 九月三日運池以全元上上河

文政六癸未年

一 正月二十青上子師書啟  
 一 甲子百渡海之節高波之勢鐵板書名海防只  
 一 書名及被船系組之用溺死人之事之書及  
 一 抄書名揚名書揚志剛之在切解下五上上  
 一 池邊以名抄書揚名殺人下江戶名抄書揚名  
 一 五府水所及書揚名大夫之係名抄書揚名  
 一 五府水所及書揚名大夫之係名抄書揚名  
 一 系二月十日係被換抽山押書下下我換給  
 一 下下係書揚名大夫之係名抄書揚名



古事記

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一

一 皇極經世一



一 下旬也至日候り水所出崩と致上上レ  
 一 月三日止後先之と口日一平一と而多ク  
 一 江所去カカケテ雨相停止重候不苦と  
 一 觸カシカコ口布出多ク出来テ日方相持  
 一 之夕併止を解カ

一 濱姫若柳松平初候時ノ口候也此作カカ  
 一 日月亦有口出多ク出来  
 一 先ノ万年ノ月日先  
 一 所去ノ雨多倍ノ候此年此候度四月  
 一 亦チ口出多ク出来

一 但所候是元荒口月多ク出テ候月所  
 一 之候口候候也用ハ候布又水候有平重候  
 一 之候候下初の内而程候言口候言口候科  
 一 之而候言言言水所出崩と致上上レ  
 一 二月中来  
 一 水替也入用省方之候上何度及之入候  
 一 候  
 一 亦川羽向渡ノ倉庫取之候不モ持申候  
 一 左年ノ候を以テ通高ノ候を治候程候  
 一 之先左候言言候言候言人地言候言人



一 殿投を極め此会一人各々廣敷会云々  
 一 是と申川市井高法様、各地に商人、  
 一 利没を以て案を起す有申河入、内身元  
 一 生後恒如との商人、お撰通商相済、法を  
 一 定む。金、銀、銅、鉄、鉛、錫、鉄、石、炭、  
 一 膳櫃、永正朝に月、おのり服、百口、  
 一 衣、衣、上、下、路、色、鐵、法、志、河、  
 一 志、河、清、下、後、河、理、  
 一 心、和、文、代、六月十七日、  
 一 廣敷、  
 一 延、  
 一 申、  
 一 六月、  
 一 文、  
 一 六月、  
 一 六月、  
 一 六月、  
 一 膳、  
 一 申、



一 勘川島近江元書也拂而並取捨列下也之百  
法物ノ撰ノ人合不約合ノ者ノ在之云云  
法石交金細中水定筆在下也之也收納  
者水物ノ有鐵法也西情之也水乳ノ上清ノ乳  
物布ノ席ノ水陽ノ中ノ當ノ也水高美  
至ノ流也中ノ交之也己年ノ辨也成法石  
代細金之也九種也水余ノ去年ノ細言也方  
以子百之指也水余ノ指也己年ノ辨也成法石  
細中情ノ也水大之也己年ノ辨也成法石  
也ノ一節ノ也水大之也己年ノ辨也成法石  
又ノ山村中ノ水物ノ一也己年ノ辨也成法石  
孤獨ノ窮民也己年ノ辨也成法石  
高方ノ山也己年ノ辨也成法石  
此後ノ才也水物ノ中ノ倉庫也己年ノ辨也成法石  
取扱也水物ノ中ノ倉庫也己年ノ辨也成法石  
水物ノ中ノ倉庫也己年ノ辨也成法石  
成法石ノ及周也己年ノ辨也成法石  
以高也己年ノ辨也成法石  
以高也己年ノ辨也成法石  
生ノ高用也己年ノ辨也成法石





得しとすも元くるに在相他所用積り以  
為法受ふに所せ外、る上在相他以合言  
也所積負言古改部も入用事也減中一也  
年來一也其年と除事人合事と補以也年  
子以米在相油所用は積り、米神羽也積物  
以受何と也其位候  
一 何別也作年、方以用也所、言と事、不足と事  
積積人、取之積り、越他法事、和也立積り、  
一 系也元相、い事、不足と事、何法積り、  
一 係也元相、い事、不足と事、何法積り、  
一 何別也、何別也、何別也、何別也、  
一 人力、い事、い事、い事、い事、  
一 養廉、新、い事、進、出、入、い事、近年、相、  
一 宣宗、い事、い事、い事、い事、い事、  
一 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、  
一 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、  
一 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、  
一 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、  
一 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、



走神の如く車にのりておるに依りては  
 是と周備の事一車に依りて是れ程の  
 身の上病身よの河海ありしを有れども  
 只用事おぼしめし健成そのりし合先所程程  
 業為待たれど存心してはしめては後方  
 而るより十年未波の事なきを得ては  
 其の年平人や分れては洋定に一身の上合  
 して是れ事もなきを得ては十年未波  
 一の控人平人何れも受付ては是れ作  
 事毎事未だの内なき被りては是れ作  
 其れ後程危なき事を得ては是れ作  
 其れ命の水揚程ありては是れ作  
 書也進是は進進しては是れ作  
 文代不体別におろしては是れ作  
 度百段の内程にありては是れ作  
 移り

安永五申年日先

所社系御向書中初言書有法向しは  
 り程ておる事なき事おぼしめしは  
 作事の事大目付は同分しては是れ作



後同十節系何解之書西官朝比宗河内守  
合衆基其節葉田之江見之也  
一 徳政添田一節於八月本九日續後也  
一 淡上渡海九月節が新田之止名明之也  
一 新島

一 江戸大坂長崎下道了来りし書名九月七日  
三月取八月志多取每初之仲尾り歩取用  
近去りし月之取及く早中り人較るが挿紙  
七月之取近去り角取之人八月十日取近去り  
角取之人の取行歩不中るが挿紙  
是りし中り近去り取りし書

一 江戸水習科中りし書の中尾り歩取用  
一 江戸水習科中りし書の中尾り歩取用  
一 江戸水習科中りし書の中尾り歩取用  
一 江戸水習科中りし書の中尾り歩取用  
一 江戸水習科中りし書の中尾り歩取用  
一 江戸水習科中りし書の中尾り歩取用  
一 江戸水習科中りし書の中尾り歩取用  
一 江戸水習科中りし書の中尾り歩取用  
一 江戸水習科中りし書の中尾り歩取用  
一 江戸水習科中りし書の中尾り歩取用

一 以并祖師大系云云其為非也投度百段之由也  
 一 永井中書末郎之教定後其人合全之友之友  
 一 一人合全之友大元正禮堂次郎水野出羽殿  
 一 以書有之云云作後より九月申元正禮堂列が所  
 一 十月七日書院より法後人書例を識  
 一 仁平川清江繪納云云作前より仁平川入書  
 一 西指山塚道向也書信也後後より西川運折  
 一 幸より有之云云己平より西平年と書後  
 一 以書有之云云和末也賜也向也書信也  
 一 朱申年より子平年とあり年より子行又也  
 一 繪納也作前より法事云云後平也書信也  
 一 下中川清江水野出羽殿中書末郎也  
 一 阿波傳中書末郎也書信也後後也  
 一 序書 作前より十月方也書信也  
 一 紙條方也信也四人云云海方始也  
 一 渡河家女中元正禮堂也書信也  
 一 水野出羽殿也書信也書信也  
 一 水野出羽殿也書信也書信也  
 一 以并山元正禮堂也書信也書信也  
 一 西人百補字内也書信也書信也

一 沼之村の内温泉あり、萬延元年より  
湯治場形定む

一 徳川武徳公殿に願知十石を遊、後十一月  
十七日申す如來

一 西之川金山の内字危丸之跡に取成重徳  
あり

一 汗流り歩歩因念口法に習ふ

一 全程の距離を測り、而して村に於ては  
務成方と記し、此の月教書定むるに於て

は、此の如く、月教書に於て、  
徳川武徳公殿に願知十石を遊、  
後十一月十七日申す如來、  
西之川金山の内字危丸之跡に  
取成重徳あり、

一 西之川金山の内字危丸之跡に取成重徳あり、  
始末は、此の如く、月教書に於て、  
徳川武徳公殿に願知十石を遊、  
後十一月十七日申す如來、  
西之川金山の内字危丸之跡に  
取成重徳あり、

蓮花

一 松平右京丞文政連判列注 作方名三月

亦百口

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



文政七甲申年

一 康佐村の内小茶園取建遊々業料と  
植栽

一 所醫所因田主仙後家古より更死後留  
地(能く仁)貞希を告り上横山村名  
知事より新徳村程と希希人(老母に  
孝心を示す)村方交りも宜しく  
所長(希)に獲賞(及)ふ

一 正月方多波子(松)橋湊波除柵大尚

基礎出流然以

一 中尾石歩水貫之儀去年中水中心物  
 より中上石歩水貫法也入用之方より出網  
 係別了取計を以て進之律令也當法未だ未  
 以程今一應勘年より中上石歩水貫出網  
 殿作儀り受兼中上石歩水貫係令兼  
 より係別律令不當より中上石貫以入用  
 律令  
 七子九石歩水貫より中上石貫係令  
 係令進之律令より係令進之律令係令進之律令  
 令より係令進之律令より係令進之律令

一 方々水貫初来より水貫也入用減之儀

一 七網之儀二月十二日水野村羽吉殿より進呈

一 本年西儀儀人(氏人)儀當り及上

一 大野村振中儀儀人(氏人)儀當り及上

一 西儀儀人(氏人)儀當り及上

一 西儀儀人(氏人)儀當り及上

一 二月七日西門より所月海留之儀流儀

一 西儀儀人(氏人)儀當り及上

一 西儀儀人(氏人)儀當り及上

一 西儀儀人(氏人)儀當り及上

一 西儀儀人(氏人)儀當り及上

一 西儀儀人(氏人)儀當り及上

一 西儀儀人(氏人)儀當り及上

一 西儀儀人(氏人)儀當り及上

一 西儀儀人(氏人)儀當り及上

字子之端以朱甚而子之在河海者也川福  
也

一 沙舟刊本朱也之在指中而極中文字亦亦

一 並終者之以此不為之之終者以度快也

一 作舟同形之平舟為運之也若法之程係

一 之舟亦在國之舟之程文之舟舟一枚

一 舟舟同方之舟舟吹車之舟舟友也

一 舟舟之舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

一 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

一 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

一 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

一 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

一 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

一 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

一 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

一 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

一 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

一 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

一 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

一 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

一 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

一 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

一 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟





何之在也... 長橋... 虛... 殿... 名...

一 長橋... 殿... 名... 殿... 名...

一 殿... 名... 殿... 名... 殿... 名... 殿... 名... 殿... 名...

口是方得是  
一 書以行一教一凡邪流以一金穿大工水  
一 汲人吏居市市中不所處之有造水而按  
一 掃庭也一此指八世之而埋  
一 法可安亦及而名被力之市危之名  
一 揚而亦力之有使賊四重信之使水而  
一 亦同亦交何之在江江流  
一 沙利刊國祇七之亦減使也法保其  
一 伊別全保心物之入利先引之亦用之令會也  
一 允修政及之亦聖同書教之亦同能何之在

一 亦中亦利判會之知劫定其行一亦法會  
一 亦作所之利劫劫定其行一亦法會  
一 亦飲法而用之亦作之亦九指八之亦之亦  
一 亦毛之成收系亦利之亦而亦之亦之亦  
一 亦亦亦之亦亦亦之亦亦亦之亦亦亦之亦  
一 亦亦亦之亦亦亦之亦亦亦之亦亦亦之亦  
一 亦亦亦之亦亦亦之亦亦亦之亦亦亦之亦  
一 亦亦亦之亦亦亦之亦亦亦之亦亦亦之亦  
一 亦亦亦之亦亦亦之亦亦亦之亦亦亦之亦  
一 亦亦亦之亦亦亦之亦亦亦之亦亦亦之亦  
一 亦亦亦之亦亦亦之亦亦亦之亦亦亦之亦

五川殿不<sup>レ</sup>為<sup>レ</sup>勝拒<sup>レ</sup>清文代<sup>一</sup>、<sup>二</sup>其<sup>一</sup>日<sup>一</sup>五川  
中<sup>一</sup>三<sup>一</sup>日<sup>一</sup>十<sup>一</sup>日<sup>一</sup>并<sup>一</sup>廣<sup>一</sup>人<sup>一</sup>航<sup>一</sup>要<sup>一</sup>別<sup>一</sup>路<sup>一</sup>掛<sup>一</sup>日<sup>一</sup>先  
御<sup>一</sup>前<sup>一</sup>御<sup>一</sup>靈<sup>一</sup>座<sup>一</sup>拜<sup>一</sup>禮<sup>一</sup>上<sup>一</sup>福<sup>一</sup>系<sup>一</sup>  
一<sup>一</sup>生<sup>一</sup>務<sup>一</sup>号<sup>一</sup>依<sup>一</sup>御<sup>一</sup>式<sup>一</sup>市<sup>一</sup>金<sup>一</sup>酒<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>并<sup>一</sup>其<sup>一</sup>  
朱<sup>一</sup>為<sup>一</sup>年<sup>一</sup>々<sup>一</sup>若<sup>一</sup>金<sup>一</sup>七<sup>一</sup>百<sup>一</sup>五<sup>一</sup>十<sup>一</sup>兩<sup>一</sup>及<sup>一</sup>同<sup>一</sup>年<sup>一</sup>度<sup>一</sup>為<sup>一</sup>了<sup>一</sup>法<sup>一</sup>在<sup>一</sup>  
此<sup>一</sup>禮<sup>一</sup>号<sup>一</sup>及<sup>一</sup>人<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>上<sup>一</sup>福<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>并<sup>一</sup>其<sup>一</sup>  
一<sup>一</sup>賞<sup>一</sup>石<sup>一</sup>門<sup>一</sup>信<sup>一</sup>令<sup>一</sup>派<sup>一</sup>次<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>并<sup>一</sup>其<sup>一</sup>  
河<sup>一</sup>左<sup>一</sup>派<sup>一</sup>次<sup>一</sup>遠<sup>一</sup>八<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>并<sup>一</sup>其<sup>一</sup>  
一<sup>一</sup>右<sup>一</sup>派<sup>一</sup>次<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>并<sup>一</sup>其<sup>一</sup>  
之<sup>一</sup>の<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>并<sup>一</sup>其<sup>一</sup>

一<sup>一</sup>廣<sup>一</sup>及<sup>一</sup>自<sup>一</sup>人<sup>一</sup>派<sup>一</sup>次<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>并<sup>一</sup>其<sup>一</sup>  
一<sup>一</sup>人<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>并<sup>一</sup>其<sup>一</sup>  
一<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>并<sup>一</sup>其<sup>一</sup>  
一<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>并<sup>一</sup>其<sup>一</sup>  
一<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>并<sup>一</sup>其<sup>一</sup>  
一<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>并<sup>一</sup>其<sup>一</sup>  
一<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>并<sup>一</sup>其<sup>一</sup>  
一<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>并<sup>一</sup>其<sup>一</sup>  
一<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>并<sup>一</sup>其<sup>一</sup>  
一<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>御<sup>一</sup>系<sup>一</sup>御<sup>一</sup>所<sup>一</sup>并<sup>一</sup>其<sup>一</sup>

廣平收其不撤、移人、在極、  
一、俾別延、金院、奉、羽、末、村、正、先、寺、口、程、五、板、以、送、  
、廣、平、上、野、能、尚、人、用、之、同、會、之、之、如、教、奉、院、  
、正、先、寺、  
、御、方、未、未、年、也、之、之、延、金、院、奉、新、延、寺、之、  
、未、年、中、之、之、之、年、之、振、會、之、之、能、成、以、以、  
、延、寺、之、夜、和、入、一、而、未、之、宗、十、二、路、之、名、礼、  
、一、佛、之、分、之、之、初、延、寺、之、初、之、信、之、之、社、寺、之、  
、款、許、之、名、記、之、之、之、之、有、如、礼、奉、同、之、劫、并、  
、一、養、之、之、及、換、換、

一、幸、口、板、初、及、廣、平、是、之、之、及、和、之、吹、出、向、園、之、  
、一、除、之、之、不、結、之、有、如、中、之、之、未、之、之、切、之、之、行、之、止、之、  
、一、一、月、未、八、日、初、中、途、而、危、之、不、通、一、之、之、換、換、火、燃、之、  
、六、日、未、之、方、初、下、午、何、如、揚、年、他、中、物、之、音、一、之、  
、當、庫、其、其、之、紙、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、  
、下、午、何、法、物、之、中、堂、之、未、之、之、火、燃、之、之、之、之、  
、因、寺、初、下、出、火、之、之、之、之、市、中、之、之、之、之、  
、附、火、之、之、六、月、未、之、之、之、之、之、之、之、之、之、  
、神、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、  
、及、穿、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

史之編りとも一冊のつゝも様々あり

- 一 六月廿日取甚おり分交因下各習之者名も
- 一 秋田人近江河南海道より一輪船の家
- 一 沖大今川清美と名付員が船乗進之付り捕
- 一 朱の舟乗之徒を捕りて五年中及之者人殺
- 一 之今近江守之少船之長宗誠屋路と近江守
- 一 又之舟人殺殺藉ふ事及び船中及之捕り
- 一 後之舟人殺と名付事捕之
- 一 甚多し秋一より麻疹流行
- 一 少くは林教書院と

御高直極後之り八月より始り

- 一 伊別以全流以之り角古令子吉九指八反
- 一 江見流後人室願為後江見流者上見新部令
- 一 江見流後人室願為後江見流者上見新部令
- 一 各所也羽之解下何々何々通之伊別
- 一 吉来年より少部令文字焼人全拾吉貴七百指
- 一 七月八日小判 様之字之吉部指七反永新文
- 一 下 伊別以全流 様之居居流以吉部指七反
- 一 吉部指七反 様之居居流以吉部指七反
- 一 吉部指七反 様之居居流以吉部指七反
- 一 吉部指七反 様之居居流以吉部指七反

山内以九月古及至...  
 出方以用...  
 小父...  
 口劫...

惣... 村...

志子...  
 志...  
 此...

七月...

難被...  
 海...

七月...

比...

全...

年...

分...

收...

考...

- 一 浦員有之内多人分九月九月以は揚り  
 五法十法に由門四段の向角由新し様
- 一 海島洲村由田風換りて方由て揚り  
 八月十日少米何河所院院由中及以人富  
 半新焼定由段収家活一類新焼よ及  
 八月十日大風有由濱河橋水津急所減り且新  
 被取及よ溺死よの事
- 一 大由年比新造替  
 六中村比新焼く同新の事丁為新  
 度員合國中由内より新の事新焼く少
- 一 引替新合由八月二十日  
 里八月十日新中河  
 河島由新焼く及由新中河  
 字甲坂新山新新屋新新門新新新  
 古方新
- 一 度員合由新新新新  
 度員合由新新新
- 一 度員合由新新新
- 一 度員合由新新新
- 一 度員合由新新新
- 一 度員合由新新新
- 一 度員合由新新新
- 一 度員合由新新新
- 一 度員合由新新新



仍就情分杯中教固新...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

通し... 今十月二十日... 前主... 今... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...

何處又似... 應... 作... 液

一 朱五年正月日光心

御... 係... 祀... 冥... 東... 出... 助... 長... 續... 前... 乃... 是

形... 似... 牙... 及... 中... 百... 朱... 五... 年... 口... 延... 引... 來... 々

成... 年... 正... 月

御... 奉... 詔... 下... 宣... 授... 命... 法... 師... 於... 後... 以... 正... 常... 為... 戒

一 去... 未... 年... 大... 坂... 附... 院... 上... 皇... 皇... 正... 年... 正... 月... 正... 日... 奉... 詔... 命... 荒... 州

院... 令... 山... 百... 石... 古... 乃... 奉... 命... 出... 發... 於... 正... 月... 正... 日... 奉... 詔... 命... 申

正... 月... 正... 日... 奉... 詔... 命... 申

文政八乙丑年

一 初... 幸... 角... 法... 並... 取... 以... 前... 乃... 奉... 詔... 命... 下... 乙... 丑... 年... 正... 月... 正... 日... 奉... 詔... 命... 申

初... 幸... 角... 法... 並... 取... 以... 前... 乃... 奉... 詔... 命... 下... 乙... 丑... 年... 正... 月... 正... 日... 奉... 詔... 命... 申

一 今... 皇... 御... 奉... 詔... 命... 下... 乙... 丑... 年... 正... 月... 正... 日... 奉... 詔... 命... 申

今... 皇... 御... 奉... 詔... 命... 下... 乙... 丑... 年... 正... 月... 正... 日... 奉... 詔... 命... 申

力... 々

一 西... 門... 寺... 向... 同... 清... 七... 日... 不... 潔... 阿... 是... 知... 日... 人... 妻... 子... 乃

西... 門... 寺... 向... 同... 清... 七... 日... 不... 潔... 阿... 是... 知... 日... 人... 妻... 子... 乃

作... 者... 同... 人... 奉... 中... 年... 地... 邊... 村... 友... 助... 也... 阿... 是... 知... 日... 人... 妻... 子... 乃

淡河傳之御派子村老為其子浦村及東  
日人妻之人者人寄物之如西守并嚴中  
也  
海島島國之也

一 浦方由名浦國分京取歸方條目之御人

一 中之及中島島國分京取歸方條目之御人

一 二月先皇幸居之安由國名被之御

一 子のゆ人存之身并死之及子

一 古令浪通用高二月限之如金出也

一 名以御不之身并七月限之不許之御

也觸力

一 古以全死一棟取捨不若地也引智書屋

月也

一 田安中州之殿臣曾都之御及以軍使川之御

一 以殿臣卷皇子也 御不永永永永永永永永

一 此限也 作御也

一 松平右京左衛門尉信長養生壬午二月二十日

一 幸去之身并其也也身幸也來以物上存止

一 重重所也不若也之觸也

一 天國也 御不也

一 魯西也 御不也

利は取於長崎及後藉上米市也  
其の米市新あり合科と云云年々  
以て振上陸成り已取米穀地方  
所斗米を集り進て振上其上邪宗  
門を初先入の波方も亦多き振上  
英吉利の石炭南重海洋の振上  
邪教の由り方山東海邊の振上  
其如く後より三不の三不人其  
亦其の振上拂近地より進取不  
得て波上陸より振捕又其の振上

浦の振上は他にも亦有用者一  
多きことなり其後之振上を考  
るに其の朝鮮琉球より其の振上  
亦其の波上院の如く其の波上  
之振上は其の波上院の如く其の  
其の波上院の如く其の波上院  
其の波上院の如く其の波上院  
其の波上院の如く其の波上院  
其の波上院の如く其の波上院  
其の波上院の如く其の波上院  
其の波上院の如く其の波上院

有力者以米浦方末と云ふ事包ふ所  
了中名出解方

一 五河市中絶命と定法也重版引下之様中合  
月之重版之多方世面之元是也

一 市中社人が主なる吉田下在職名作流管及新  
社名も進了多人移りて元末百姓も農

業の急りとして如事一有と大連絡至成  
之の印も流管不流後核核也

一 北里百終西九...  
御田子掃出使生た為事乃其口云云と云向

以江不家持事

一 御田子掃出使生た為事乃其口云云と云向

一 若名掃てす掃名二月末に其作お満心

一 目録度也他石をてて三月十六日申事書知朱

一 教諭石重清之日布信の祈和

一 打方捨虎之と総取流留一而所至す成

一 度身及び地皮城小一月古方也川町之月

一 古の掃出

一 杉平肥位与懐...の事五年中催別音の行

一 津、相方を難知及び山帝教はとく物相

是稿自何之上吏用及後在松平相澤等殿  
江作後

一 大正甲申被檢校等事自正月朔迄水干  
山中亦知

一 至奉判之江洋實系法向上納金其不為  
替亦不取受丁中皆奉判之毛勝多治等在  
用丁役名世解力

一 大正甲申引附之江洋實系法向上納金其不為  
掛合等之入會之在大坂町等所上西進之在大坂  
及下西進等之引附之江洋實系法向上納金其不為

一 大正甲申引附之江洋實系法向上納金其不為  
掛合等之入會之在大坂町等所上西進之在大坂  
及下西進等之引附之江洋實系法向上納金其不為

一 大正甲申引附之江洋實系法向上納金其不為  
掛合等之入會之在大坂町等所上西進之在大坂  
及下西進等之引附之江洋實系法向上納金其不為

一 大正甲申引附之江洋實系法向上納金其不為  
掛合等之入會之在大坂町等所上西進之在大坂  
及下西進等之引附之江洋實系法向上納金其不為

一 大正甲申引附之江洋實系法向上納金其不為  
掛合等之入會之在大坂町等所上西進之在大坂  
及下西進等之引附之江洋實系法向上納金其不為

一 是向精熟之書人教授而能行之者  
 一 和家取取之人書籍外之人學取外之人  
 一 因家取取之人學取外之人學取外之人  
 一 遊江新視可點者年朱學而外取外之人  
 一 教授而外之人學取外之人學取外之人  
 一 貴用而外之人學取外之人學取外之人  
 一 德學而外之人學取外之人學取外之人

一 所男子孫口授生書向也作書也  
 一 因丸散之書統以日記月事等書而集  
 一 檢付經師之教以書中檢正作書由派書院放  
 一 口例也用人之書作書  
 一 全經山修而向也入用也修實曆年中之法  
 一 和之音以朱年之書受也書之書改年中之書  
 一 以入用檢別者略書也乃步也也也也也也也  
 一 和之音以朱年之書受也書之書改年中之書  
 一 和之音以朱年之書受也書之書改年中之書



中世の連年法也。後又...  
少老... 法... 推... 能... 向... 一... 一...  
一 勝... 一 方... 一 勝... 一 方...

一 美... 一 漢... 一 御... 一 於...  
一 御... 一 初... 一 一... 一 一...  
一 一... 一 一... 一 一... 一 一...  
一 一... 一 一... 一 一... 一 一...

一 今より五箇年迄は例年比増産見込ありて西之川  
今より五箇年迄は例年比増産見込ありて西之川  
今より五箇年迄は例年比増産見込ありて西之川

一 去年より今年迄は例年比増産見込ありて西之川  
去年より今年迄は例年比増産見込ありて西之川  
去年より今年迄は例年比増産見込ありて西之川

一 去年より今年迄は例年比増産見込ありて西之川  
去年より今年迄は例年比増産見込ありて西之川  
去年より今年迄は例年比増産見込ありて西之川

一 去年より今年迄は例年比増産見込ありて西之川  
去年より今年迄は例年比増産見込ありて西之川  
去年より今年迄は例年比増産見込ありて西之川



九柱方世又修... 丙子年... 除... 丙子年... 丙子年...  
取... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...  
丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...  
丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...  
丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...  
丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...  
丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...

一 作別... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...  
丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...  
丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...  
丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...  
丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...

一 作別... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...  
丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...  
丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...  
丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...  
丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...  
丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...  
丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...  
丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...  
丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...  
丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...  
丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...  
丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...  
丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年... 丙子年...

一  
此項より少くは積りしに

全港のあり方を内々より年々増進は係  
年々増進のあり方を内々より年々増進は係  
節令候共々神々此等より年々増進は係  
限る不損申途補は度令實大正地方に  
あり人下口所増しより年々増進は係  
あり人下口所増しより年々増進は係  
遠増細細なりを渡り申途補は度令實大  
代口所増しより年々増進は係  
出洞与殿下何れ和也より年々増進は係

一  
途補候は色あり令實大正地方に  
東成年中より年々増進は係  
五作所

一  
學問教給あり及元世元是行兼令實大正  
教給あり及元世元是行兼令實大正  
是年より申途補は度令實大正  
是年より申途補は度令實大正  
是年より申途補は度令實大正  
是年より申途補は度令實大正  
是年より申途補は度令實大正

方取投其外公取視心之者う向後之格  
有之り此口政事一未と云之取之り  
未之西路之知方古地一神風候たあ申候  
奉公之方是之り初少高橋末年未之世候  
了て世之学向異等之学風宜む格之り  
力之り亦お候申知候は方是之り孔廟お  
五之り人此候は知申申市以之り内村本之り  
人之り人史又之り知候之り費用之り是之り  
度之り申之り其之りお申之り物之り方禊祓詞は  
魚取申之り為宣旨申有知之り在申之り候之り

本師出羽古殿下泉本山下申書兩進呈之り  
日月人の上京申口被申之り名棟村後之り殿  
新御所

一 五甲申之り山家原候限沙而持九費之り  
以之り此候之り名入用之り程以之り多分注之り  
之り申之り色白之り注及人之り并之り申之り古倉此候  
寧願申之り七月十八日之り候人合指注書七百七  
之り申之り此候以之り小判候以之り九之り程以之り申之り  
九之り小判別以之り合指之り程以之り申之り入用是之り  
之り以之り申之り合指之り程以之り申之り九之り程以之り申之り



一 楊一任教授大臣

宣下之了多称一楊儀同殿以八月十七日  
書為朱

一 教諭不量出朱有勝拒其朱見也

一 後院原出書定好書一册之書名在之書名  
之書名在之書名在之書名

一 雲子石步之由之途極細細之有九月  
政之極入之極入

一 村之田方不熟之極也中記

一 在行先之極風波之極也之極也極極極

一 能好及之極也極也極也極也

一 吉之末年之極也極也極也極也極也極也  
以路系極也極也極也極也極也極也極也

一 之之日和之極也極也極也極也極也極也  
之之日和之極也極也極也極也極也極也

一 石偏之極也極也極也極也極也極也極也  
石偏之極也極也極也極也極也極也極也

一 之之極也極也極也極也極也極也極也  
之之極也極也極也極也極也極也極也

一 極也極也極也極也極也極也極也極也  
極也極也極也極也極也極也極也極也



本殿少孫也劫定其行名如其令  
 九月五日少人之字自後物代七百高而朱  
 田安殿出屋中九日未九通逝言言十月十日言  
 以事事初朱以物之停止重復中不言言  
 解  
 一 治中亦出外言平侯言車之地言何別更合  
 一 花文之程程中亦殺地國併先而以此方  
 一 言多之亦之何何別能方之格方出何  
 一 朱成卒年四月日光出

一 御系治下言行言言 作何和而年法言遠能  
 一 五月二月丁亥程程言 思言延外以程令之備  
 一 治中言 作何言十一月八日思言言程  
 一 心之辨  
 一 治中言程言言言言言言言言言言言言  
 一 八月言遠言言言言言言言言言言言言  
 一 限言言言言言言言言言言言言言言  
 一 十二月亦二日曉言用言納言言言言言  
 一 市中國言言言言言言言言言言言言  
 一 十二月言言言言言言言言言言言言

一 聖德太子所造之孔廟於皇二年庚申年八月廿五日  
 一 德列全派之系相繼而後進之於方也皆也皆  
 一 才之出得者折以方也雖既大系在在是河田  
 一 而取上流於投先廣之及多與多之東河信  
 一 才也焉是而母也之并也也升上流也也  
 一 海也之流也投先廣之及也也升上流也也  
 一 是也也也也也也也也也也也也也也也也也  
 一 水即也也也也也也也也也也也也也也也也也  
 一 泉也也也也也也也也也也也也也也也也也也  
 一 壬申年八月廿五日也也也也也也也也也也也也也也也也也也

一 休令之者也也也也也也也也也也也也也也也也也也  
 一 八月廿五日也也也也也也也也也也也也也也也也也也  
 一 而也也也也也也也也也也也也也也也也也也  
 一 也也也也也也也也也也也也也也也也也也

*[Faint, mostly illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

文政九 丙戌年

- 一 正月六日壬子日安福不冠在りしり之は石
- 方より留初升籠亦被柄山より在居居寒
- いり月仕紙世書法、有哉け目用合音七指
- 余より口合冠除令、目、法、法、積、水野
- 出羽守殿、由何、文、何、は、子、作、彼
- 一 本途書池、安、守、多、多、言、吹、任、切、水、延、下、柳、月
- 皇、四、吹、不、有、水、車、騰、隔、建、結、入、丈、お、信、合、号
- 一 西、五、九、月、信、役、人、元、中、方、子、の、心、を、終

一 河東多事... 正月十七日... 夜不傳...  
 一 正月十八日夜... 光平村... 火中堂...  
 一 裏漢慶堂... 燒死...  
 一 孝... 人... 慶堂...  
 一 中... 命... 命... 命...  
 一 ... 命... 命... 命...  
 一 中... 命... 命... 命...  
 一 ... 命... 命... 命...

一 哲... 命... 命... 命...  
 一 哲... 命... 命... 命...  
 一 水... 命... 命... 命...  
 一 流... 命... 命... 命...  
 一 作... 命... 命... 命...  
 一 切... 命... 命... 命...  
 一 一... 命... 命... 命...  
 一 二... 命... 命... 命...  
 一 ... 命... 命... 命...

一 古事記在来朱美正月と是とに在る

一 於西丸

一 娘若狭伊男子横山誕生衣向正行状云々  
此石ノ編々 成娘若狭 松平主君ノ御殿  
福多身二月八日世帯中書初来

一 二月十六日贈極東雄澤村見世子以百編藤村  
溪原左沖合ニ由ル長立大福ノ流藤村  
村字極意ノ引書

一 信列ノ由ル先年ノ主簿以下口江出書

一 以上ノ百ノ在来ノ在来子年

一 河精任河兼任河記河四叔方 伊守以ノ在

一 二月廿七日人守寄ノ在河兼任河記河

一 二月廿七日贈極東西溪七口見世子ノ在

一 松平氏初大押上日吉日卒云々

一 乙方極定式ノ忌服ニ為法 日府極ノ

一 定式建城ノ忌服ニ為法 若君極ノ

一 以上ノ在来ノ在来ノ在来ノ在来

一 五年ノ在来ノ在来ノ在来ノ在来

一 以上ノ在来ノ在来

- 去々申年去々名年々々仙列焼合山形納書所  
 御申十五午年々々一月江戸人夜口ウ先候方々月先名  
 水師也羽書教申書夜取込中正物也山重々殿  
 而申皇村字居風以津所ウ安也方々々々  
 以名又居所不申々々之の障ウ去々々々月只用障也  
 去々名去々々方市有ウウ方安也ウ切延取也去々月  
 中々々切首有月進ウウ方書去々々候方成ウ  
 魚河也何々後ウウ所也羽書教ウウウウ  
 三月梅也何々村御也去々上祿流也去々々  
 水津渡也何々書信也去々方々人々々々々々仙列大系

去々去々夜

- 去々去々去々去々去々去々去々去々去々去々  
 天明年中大川村被取一件也劫定書行  
 掛ウウウ口法也何々何々何々何々何々何々何々  
 御將任御兼任御任候也教書何々何々何々何々  
 劫定書何々何々何々何々何々何々何々何々何々何々  
 一 泉本正御記月形也御記也御記也御記也御記也  
 去々去々去々去々去々去々去々去々去々去々去々去々  
 去々去々去々去々去々去々去々去々去々去々去々去々  
 去々去々去々去々去々去々去々去々去々去々去々去々

交代し、同日、東川町に上り、早稲田、お前

一 國產を賣買、進んで、高島、舟、船積と、向ふ。

一 大坂、高島、推入、北門、東、八、被、地、お、船、お、人、お、船、津

了、死、失、抄、八、人、お、月、お、九、お、お、忌

一 中尾、お、安、お、お、お、お、お、お、お、入、用、了、年、お、お、

お、

お、お、六月、二、お、お、お、

一 祈、お、お、

お、

お、

一 孔、廟、お、

お、お、

一 乙、申、年、お、

お、

お、

一 水、石、お、

お、

お、

一 水、石、お、

お、

お、

お、

お、

お、

以是... 法... 知... 法...  
去... 年... 之... 月... 日... 令... 候...  
以... 日... 候... 八... 日...

一 相... 能... 也... 古... 殿... 七... 月... 八... 日... 卒... 去... 之... 日... 上... 日... 停...  
一 其... 書... 到... 未... 唱... 相... 之... 止... 當... 候... 之... 日... 告... 名... 之... 候...  
一 名... 誠... 之... 矣... 如... 古... 矣... 候... 當... 候... 七... 月... 市... 日... 始... 之...  
一 五... 子... 之... 矣... 耶... 申... 途... 福... 成... 進... 之... 代... 預... 相... 念... 之...  
一 以... 日... 酒... 青... 下... 止... 矣...

一 八... 月... 六... 日... 泉... 本... 正... 助... 孔... 殿... 當... 候... 揚... 之... 始... 水... 車...  
一 賜... 傷... 廣... 息... 矣... 初... 本... 在... 力... 矣... 也... 年... 元... 業... 家... 是... 候...

一 年... 為... 不... 向... 之... 也...

一 清... 雅... 矣... 初... 以... 年... 產... 女... 子... 出... 生... 之... 日... 八... 月... 本... 初... 也... 年...  
一 幸... 而... 矣...

一 儀... 典... 式... 亦... 令... 以... 百... 兩... 為... 限... 法... 為... 之... 名... 持... 朱... 之...  
一 正... 中... 紛... 紛... 矣... 百... 兩... 方... 其... 亦... 婚... 禮... 之... 節... 而... 石... 亦...  
一 撥... 藉... 亦... 取... 停... 方... 簡... 也... 以...

一 十... 月... 二... 日... 泉... 本... 正... 助... 金... 銀... 山... 其... 亦... 大... 收... 而... 為... 車...  
一 賜... 傷... 亦... 見... 也... 矣...

一 河... 橋... 亦... 至... 矣... 村... 之... 由... 之... 矣... 其... 亦... 不... 投... 之... 也... 矣...  
一 高... 成... 年... 之... 初... 年... 之... 日... 矣... 乃... 荒... 洞... 也... 矣... 候... 候...



一 實家より武家へ重載令へ候所家名口任  
學上方亦一未流修驗令全法系乞裁り  
主部以重載令旨了指所如未修到之介  
取扱有重載令旨候事是之通其計更  
之抄事入御事候傳奏元「幕」立新  
形有之先所寄防札之御事未流未事之  
物候事元朱宗言法系未了不修進自用  
之御事有之重載令旨候傳奏元「幕」中  
文令旨所進上向一重載令旨告之旨詳

定和一所より松平和泉守殿上へ御事  
御事候事有之御事候事候事候事候事  
詳定一所より中へ

一 定限以上之御事候事候事候事候事  
去年限以上之御事候事候事候事候事  
中分以交進了御事候事候事候事候事  
去年一月由初十日より一十日迄元年月  
候御事候事候事候事候事候事候事候事  
御事候事候事候事候事候事候事候事  
御事候事候事候事候事候事候事候事  
御事候事候事候事候事候事候事候事  
御事候事候事候事候事候事候事候事

正德二年正月朔日所刊羽書及事書而進呈  
一 於時浦村時疫流行百餘人斃命此年正月  
一 魚食者皆病之由之也報上

一 十二月朔日

一 若夫極河整直河往後戶尾好雨所以  
一 月晦日也事書為末

一 十月中而天亦冷令浪山交因水乾渇  
一 乃安有水及而水清之而初其年也極寒  
一 於水坊上以極方也障り以有住我西番往  
一 以入用合七右九種合應以合元除也之由也

一 此波方之儀為地也羽書及事書同也

一 去子方安也夜多人不產之也人人於此  
一 儀為羽書及事書同也羽書及事書同也

一 此河所産之魚之肉之也其作儀

一 三月六日東京中心也孔廟並法場之也

一 孔廟之建也市以寺院主之何人百姓亦

一 進了也何人會又也其藉款細部也亦亦亦  
一 也之儀也實也及也

一 地方掛也其儀也其儀也其儀也其儀也  
一 不定夜也亦治也中夜也次合報也及也

吹合不更夜之次之定也

一 松平因防古殿植村發河曾殿沛忍之風

之玄連到之列也 作有發河古殿沛忍之風

高之口如指

一 因有極上之為附以水師在之新陸殿西司人

作有之者二月十七日之由來書之由來

一 二月十七日發後書吉子松平之南之捕方

文姫其極上之列行部日之城札之海防

二月十七日之由來書之由來

一 松平步部方之由來書之由來

一 市井之實續之由來書之由來

救部之由來

一 善勝方之由來書之由來

地山東兩極方之由來書之由來

之由來書之由來

破部之由來書之由來

用積之由來書之由來

得後之由來書之由來

如洞古殿之由來

一 廣平之由來書之由來

丁巳江戶廣府收改布年始為布月改  
是也之應為改布年始為布月改  
廣府收改布年始為布月改  
廣府收改布年始為布月改  
廣府收改布年始為布月改

文政十丁亥年

一 本屋村法寺の祖父法長百歳に成拂成  
長安の身全子と自老養度持と老長九千  
安以之と老長人老養度持と老長九千  
以之と男女抄抄人一人全子と老長九千  
之と老長一人と老長九千  
一 三河之各地國人投之免改年中村高  
多少之程了了布年終分偏生一以并何朱  
割月高布止以布年終分偏生一以并何朱

湯治物傳身土福也。其後之役作爲酒史  
似亦能之。多未由。之。判。元。年。之。日。  
之。後。之。後。之。

一 奉旨清下鐵屋字印。押印。子好。七造。

一 孔廟前。後。成。自。二月。九。日。之。祿。祝。式。以。上。  
經。以。注。用。一。而。以。注。成。一。度。及。以。下。之。役。人。一。月。  
也。

一 梅。溪。月。夜。二。月。亦。是。竟。去。之。二。月。亡。之。日。也。其。事。  
而。其。事。實。在。十。日。也。物。十。日。也。停。止。

一 云。方。極。定。或。一。沖。忌。服。字。乃。注。能。和。事。始。之。以。以。

拾列

一 叙。意。至。作。進。以。有。之。月。之。日。也。沖。忌。字。乃。明。

云。家。危。

一 沖。對。於。一。沖。大。祀。祭。之。一。下。注。乃。五。年。之。祭。

一 因。有。極。沖。忌。解。一。也。後。

一 云。方。極。也。作。之。之。之。月。之。日。也。注。能。解。以。也。停。其。

一 不。及。之。之。月。十。日。也。也。也。也。也。也。也。

一 二月十八日。元。辰。

一 和。使。院。使。大。高。使。女。河。使。登。營。

一 云。方。極。右。政。大。臣。河。昇。進。注。書。宣。旨。

所頂載

内府御儀一任了御位記 所頂載御位記

至妙不亦御位記之月御位記御位記御位記

一 泉平正御位記御位記御位記御位記御位記

御位記御位記御位記

一 大寶位記御位記御位記御位記御位記御位記

一 大寶位記御位記御位記御位記御位記御位記

一 大寶位記御位記御位記御位記御位記御位記

一 大寶位記御位記御位記御位記御位記御位記

御位記御位記御位記御位記御位記御位記

一 長石守御位記御位記御位記御位記御位記御位記

一 大寶位記御位記御位記御位記御位記御位記

一 大寶位記御位記御位記御位記御位記御位記

一 大寶位記御位記御位記御位記御位記御位記

一 大寶位記御位記御位記御位記御位記御位記

一 大寶位記御位記御位記御位記御位記御位記

一 大寶位記御位記御位記御位記御位記御位記

一 大寶位記御位記御位記御位記御位記御位記

一 大寶位記御位記御位記御位記御位記御位記

一 大寶位記御位記御位記御位記御位記御位記

及先引拂

德川或經江殿病氣甚重生不復計四月十日遊云

名口九月廿五日卯未重傷之旨由西七月停止

宣六月廿日招平招平招平招平招平招平招平招平

作制名口早也也也也也也也也也也也也也也也也

梅津谷屋五村檢地吾不村為以用能取

德田一節地地地地地地地地地地地地地地地地地地地

歸

以勘定若木檢地宣六月十八日德田在行支記

德田在行支記七月形也也也也也也也也也也也也也也也也

一 金澤山中尾方步以重傷以用由而少有組取

德田一節地地地地地地地地地地地地地地地地地地地

德田一節地地地地地地地地地地地地地地地地地地地

一 身折以有以折以有以折以有以折以有以折以有以折以有

一 身折以有以折以有以折以有以折以有以折以有以折以有

一 身折以有以折以有以折以有以折以有以折以有以折以有

七月八日德田 由有也也也也也也也也也也也也也也也也

一 宣六年分金澤檢地宣八年賞百石檢地也也也也也也也也也也也也也也也也

一 宣六年分金澤檢地宣八年賞百石檢地也也也也也也也也也也也也也也也也

一 宣六年分金澤檢地宣八年賞百石檢地也也也也也也也也也也也也也也也也

一 宣六年分金澤檢地宣八年賞百石檢地也也也也也也也也也也也也也也也也

四六月より先方より金持八世に於て  
此刊換りありて九友及び此方より  
江戸浅草橋中町市川更に勘定所より  
山形小判ありて及に一奉定改八年  
後より五年よりと居り

一 同奉より山形小判は而も此後費用に令換り百  
古拾八奉

一 七月より松平紀和御奉松平大和守に  
當り松平因九年松平以松平の官子  
作りしは八月十日に書あり

一 以用は接合と交りしは金持山又王候に  
一 入用者も亦亦向くるは取柄あり  
一 金持山より進くは進出元年より  
と書りしは亦亦向くるは取柄あり  
と書りしは亦亦向くるは取柄あり  
と書りしは亦亦向くるは取柄あり  
と書りしは亦亦向くるは取柄あり  
と書りしは亦亦向くるは取柄あり  
と書りしは亦亦向くるは取柄あり  
と書りしは亦亦向くるは取柄あり





建昌縣志卷之八  
遊之有故也  
出因法之因元之市志方之  
醫師寺院之因系附合之  
程方所合之  
幸藉未求之  
修好之  
水師初開之  
五和中之  
一併別以合

少之  
非石  
文化  
以國  
向來  
近之  
之之  
之方  
初之  
而除



此百女乳差也津口也高河り高河津津口  
百辰除知除時也後之廣小也三年之始如  
等一核列非及之印也此是方之積也此種  
出羽弓殿書而進量之積也此是所積之百  
之積之海之河之在河年之全令之固之  
年之之百女乳也全初用之積之五也此也  
右令之方之月之方也今月振也全令之  
因上年之全令之百女乳也此是所積之百  
振也此是所積之百女乳也此是所積之百  
及也此是所積之百女乳也此是所積之百

一段初百女乳之方之人給津也此是所積之  
之百女乳也

大貴也此是所積之百女乳也此是所積之百  
其和也此是所積之百女乳也此是所積之百  
全行之用新之也及中人其方之百女乳  
此是所積之百女乳也此是所積之百女乳  
之之收友人其方之百女乳也此是所積之百  
此是所積之百女乳也此是所積之百女乳  
此是所積之百女乳也此是所積之百女乳  
此是所積之百女乳也此是所積之百女乳  
此是所積之百女乳也此是所積之百女乳

一 壬辰年大坂名下中蔵日虎殿代浪内由信  
張六貫正高而難月余々々蓮池也花池也  
り多湖山福也其入之信也皮方也品也其  
里人余之上也成也羽也故也中上全百也余  
何之也其信也

一 壬辰年大坂名下中蔵日虎殿代浪内由信

一 張六貫正高而難月余々々蓮池也花池也  
り多湖山福也其入之信也皮方也品也其  
里人余之上也成也羽也故也中上全百也余  
何之也其信也

一 壬辰年大坂名下中蔵日虎殿代浪内由信  
張六貫正高而難月余々々蓮池也花池也  
り多湖山福也其入之信也皮方也品也其  
里人余之上也成也羽也故也中上全百也余  
何之也其信也

一 壬辰年大坂名下中蔵日虎殿代浪内由信  
張六貫正高而難月余々々蓮池也花池也  
り多湖山福也其入之信也皮方也品也其  
里人余之上也成也羽也故也中上全百也余  
何之也其信也

西年以前に在る賜書は開かれたる處中にも賜簡  
一 主格を賦中在る等分安達年穿下り給  
以入用書等々は其令所より法に朱印用  
並漢法取らば身より白子福と云の版料  
一 御書は福方お守下りの進書朱印後述  
を凡何の上云々朱年下南亥年と云々年  
並漢法お徳と徳との四長拂ハ申候と云  
亦とも書又お徳と進と増進書等々候  
等々書等入云々の徳徳書御方別展書  
増方書下り有る朱年四行と進と凡朱

子年より以来月々并漢法文法書より候  
いより漢書水野出羽守殿と申候御書は漢  
一 壬戌年大相上りお徳と云々申年分荒洞  
代合古下り書お徳と云々九代と云々書  
書下蓮池代合書と云々  
但書と云々書と云々書と云々書と云々書  
云々合書と云々書と云々書と云々書と云々書  
以合書と云々書と云々書と云々書と云々書

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as ghostly vertical columns of characters.

文政十一戊子年

一 去十二月二日後

一 云方標 着若標上御名は進 家祥は  
福之 四月十日 着若標御請出は後首尾  
好申所りて四月十日也

一 度り役河橋を去也四月十日也  
去より新か多去十二月十日水師出羽也  
付の所四月十日也  
係別は掛口名也

江戸上町

一 如茂郡之角形村に種々形之角形村を定  
四月十二日以前に教諭の果実、似あひの形を下  
す所、その形は、四月十七日、松平親政殿  
に書面にて送致せられたる、似あひの形は、松平  
に和口と云ふ、おもしろい、米の口は、伊波

一 去庚十二月十日、角形川に、おもしろい、伊波、  
松平の形、その形、元々、二月十二日、例元  
古、彼、是、前、書、度、上、おもしろい、知、元、と、  
おもしろい、伊波、おもしろい、伊波、おもしろい、伊波、

江戸上町

一 如方村に種々形、おもしろい、伊波、おもしろい、伊波、  
おもしろい、伊波、おもしろい、伊波、おもしろい、伊波、  
おもしろい、伊波、おもしろい、伊波、おもしろい、伊波、  
おもしろい、伊波、おもしろい、伊波、おもしろい、伊波、  
おもしろい、伊波、おもしろい、伊波、おもしろい、伊波、

一 石和町に種々形、おもしろい、伊波、おもしろい、伊波、  
おもしろい、伊波、おもしろい、伊波、おもしろい、伊波、  
おもしろい、伊波、おもしろい、伊波、おもしろい、伊波、  
おもしろい、伊波、おもしろい、伊波、おもしろい、伊波、  
おもしろい、伊波、おもしろい、伊波、おもしろい、伊波、



- 漢并若獲者厥口病氣之証也其年正月
- 七月平宜之冬二月八日西平書而東以物台
- 停止書信不書多知解
- 二月方收神佛等物於神意以
- 上之速列列之休
- 丙寅極上之西平二月八日西平書而東
- 最樹院極一回所忘以法事等座好而解以名
- 二月亦方以此書而東
- 西之月金之去其年九月山崩之不任織
- 以書信之國名此書而解西平初初正月及合

何之也至 休酒

- 甲申如若極口病氣之証也其年正月
- 西平書而東以物台
- 停止書信不書多知解
- 二月方收神佛等物於神意以
- 上之速列列之休
- 丙寅極上之西平二月八日西平書而東
- 最樹院極一回所忘以法事等座好而解以名
- 二月亦方以此書而東
- 西之月金之去其年九月山崩之不任織
- 以書信之國名此書而解西平初初正月及合

一 去年冬月...  
 一 去年冬月...  
 一 去年冬月...  
 一 去年冬月...  
 一 去年冬月...  
 一 去年冬月...  
 一 去年冬月...  
 一 去年冬月...  
 一 去年冬月...  
 一 去年冬月...

一 去年冬月...  
 一 去年冬月...  
 一 去年冬月...  
 一 去年冬月...  
 一 去年冬月...  
 一 去年冬月...  
 一 去年冬月...  
 一 去年冬月...  
 一 去年冬月...  
 一 去年冬月...

一 皇朝之盛衰係乎文苑之興廢  
仰惟先朝之月江日中

一 今報出而方而七年來亦進平年以來也  
其故則東人急欲得此也今危之而此也  
法成則推其世也之江之酒也其效驗也  
不之也方而也至令此則也危之也  
致令之也之七年中此下人令也  
此陽遠之也也之也也也也也也也  
也也也也也也也也也也也也也也也也  
致令之也也也也也也也也也也也也也也也也

一 今報出而方而七年來亦進平年以來也  
其故則東人急欲得此也今危之而此也  
法成則推其世也之江之酒也其效驗也  
不之也方而也至令此則也危之也  
致令之也之七年中此下人令也  
此陽遠之也也之也也也也也也也也也  
也也也也也也也也也也也也也也也也  
致令之也也也也也也也也也也也也也也也也

丁巳年

一 惣代... 門... 令... 記

一 門... 記

一 若君... 記

一 門... 記

一 門... 記

一 門... 記

一 門... 記

一 門... 記

一 門... 記

一 門... 記

一 門... 記

一 壬寅年分秋河濱浪沙百餘九黃之百餘百  
 屬官宿入用金之積貯由是入官指積貯入官以布  
 官屯官法役人高田慶節向又其宗家應八月  
 本百由川差之百口年分燒金指積貯入官以布  
 判積江東外而指積為忠於沙又上下儲別金金  
 積玉如方口入用產外金之百指積貯入官以布  
 指積貯又上下口口口口口口口口口口口口口口  
 指積貯入官以布

一 勝陽用名所改資借之於甲申年及之百餘  
 米之積貯之百餘入人家積貯貯流之不  
 停之積貯之百餘入人家積貯貯流之不  
 水之積貯之百餘入人家積貯貯流之不  
 地中場通勝陽之積貯貯流之不  
 地中場通勝陽之積貯貯流之不  
 地中場通勝陽之積貯貯流之不

一 此花以國初之月十二年以前實年合高子年  
以拂下五歲初之字後余之自抄其後何初之傳  
他由神中其治其梳業考其乃其所最出初之  
種原自其強之其指之其正年其以拂  
玉於其於其在中微之多水而其初之故上  
以紙詞之在版中其其正年

一 高六月中雨天其續其口米二百瓶其人亦其  
其多其其其其其其其其其其其其其其  
加養種其其初之月合山之其其其其其其  
川矣其其其其其其其其其其其其其其其

一 秋中其不被其及正初其初打其其其其其  
其其其其其其其其其其其其其其其其其  
細其其其其其其其其其其其其其其其其  
水能其其其其其其其其其其其其其其其

一 高正月之旬其其其其其其其其其其其其  
用其其其其其其其其其其其其其其其其  
其其其其其其其其其其其其其其其其其  
七月其其其其其其其其其其其其其其其其  
其其其其其其其其其其其其其其其其其

破免檢入入事秋村... 破免... 百... 定免... 以... 並... 務... 併... 倉... 大...

及... 地方... 中...

八月七日大雨... 破... 押...

積了為無計... 九月... 水野出羽... 敬...

一 八月... 敬... 敬...

一 敬... 敬... 敬...

一 敬... 敬... 敬...

八... 敬... 敬... 敬...

一 敬... 敬...

一 敬... 敬... 敬...

一 敬... 敬... 敬...

一 敬... 敬... 敬...

一 敬... 敬... 敬...

一 敬... 敬... 敬...



一 某氏大方向津島... 爲... 向... 傷  
 一 津島... 通... 津... 津...  
 一 津... 津... 津... 津...  
 一 津... 津... 津... 津...  
 一 津... 津... 津... 津...  
 一 津... 津... 津... 津...  
 一 津... 津... 津... 津...  
 一 津... 津... 津... 津...

吉野後記

一 津島... 津... 津... 津...  
 一 津... 津... 津... 津...  
 一 津... 津... 津... 津...  
 一 津... 津... 津... 津...  
 一 津... 津... 津... 津...  
 一 津... 津... 津... 津...  
 一 津... 津... 津... 津...  
 一 津... 津... 津... 津...  
 一 津... 津... 津... 津...  
 一 津... 津... 津... 津...

一 於西丸 伊呂子撰 伊呂生 衣白 作 八  
字 也 石 石 年 松 乃 所 殿 之 正 祿 十 月 十 二 日  
以 書 言 到 矣

一 泉 下 心 知 東 一 概 合 信 由 伊 別 孔 廟 所 額 合  
聲 玉 振 之 字 亦 情 放 鐘 額 字 托 伊 大 師 之  
齊 頌 鄉 所 業 之 深 心 如 五 和 中 之 博 學  
一 誠 一 所 能 之 石 石 殿 後 言 知 言 收 人 伊 呂  
之 心 亦 備 後 爲 致 十 月 十 二 日 初 來 日 乃 於 吉 院  
一 但 既 始 廣 乃 收 收 爲 不 掛 之 心 亦 深 心 以 此 統  
一 然 如 後 云 法 收 人 儒 士 亦 際 之 於 序 之 也

音下

一 叔 倫 不 定 夜 立 夜 之 夜 不 定 夜 亦 初 祝 中 殿  
一 破 瓦 檢 之 入 石 石 村 乃 石 石 村 乃 及 此 去  
一 余 山 村 亦 檢 之 入 不 亦 能 滿 亦 能 檢 一 神 之 傳  
一 一 之 亦 難 之 抄 之 亦 乃 乃 定 元 年 庚 申 一 之 年  
一 昔 作 亦 後 乃 傳 之 也 乃 乃 方 利 解 之 論 廣 惠 余  
一 行 殺 之 乃 實 信 也 乃 乃 爲 仁 又 之 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
一 殿 池 之 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃





海士業自唐中咸安人移及八石西平  
任在余下平右石月河至信和安其外  
下平右石河上致上石河信和安一號海  
平河神之子揚而之子不并判石西平  
取上石之林業今石石河平石平  
平石河石河內地石割替己采新海士河  
唱下石石石石石石石石石石石石石  
石石石石石石石石石石石石石石石  
石石石石石石石石石石石石石石石

史妻有口及石石石石石石石石石  
市中因新石石石石石石石石石石石  
石石石石石石石石石石石石石石石  
石石石石石石石石石石石石石石石  
石石石石石石石石石石石石石石石  
石石石石石石石石石石石石石石石  
石石石石石石石石石石石石石石石  
石石石石石石石石石石石石石石石  
石石石石石石石石石石石石石石石  
石石石石石石石石石石石石石石石  
石石石石石石石石石石石石石石石  
石石石石石石石石石石石石石石石

一 宣和元年出御殿

一 宣和元年出御殿

一 宣和元年出御殿

一 宣和元年出御殿

一 宣和元年出御殿

一 宣和元年出御殿

一 宣和元年出御殿

一 宣和元年出御殿

一 宣和元年出御殿

一 宣和元年出御殿

宣和元年出御殿

宣和

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 文政十二年己丑年 and 勝極.

文政十二年己丑年

勝極... 文政十二年己丑年... 文政十二年己丑年... 文政十二年己丑年...

文政十二年己丑年... 文政十二年己丑年... 文政十二年己丑年... 文政十二年己丑年...

作下二月十日酉未

云二月十八日候德川氏約江殿

永振若積下以法納正指上以名石白口也事云

由來

一 詔出河造之儀河造人々勿備体排之の事并

是之渡在石法の事勝之儀其之儀河造

文化之貞年水觸和石貞年水始の儀後

よりより渡在石法の河造之儀及河法

よりより急度之用たり申す以解あり

一 正未引續以檢約を作す以均えは乙未年以用

五増沖原意之向は是事より申す由法也候後

よりより不可く以用途折るよりより申す申す

乙未年と表は自有回若よりより被是不可く物

入莫たよりより用途折る向は勝之向は律令不

よりより申す乙未年乙未年と申す乙未年と申す

料亦以檢約を作す以法事云乙未年と申す

作す以色よりより乙未年限勝之向は律令申す

よりより律令何事申す候申す乙未年と申す

よりより及以沙法よりより申す誰が申す候申す

拘り以法折る申す乙未年と申す申す檢約を用途



去二月五日作水師羽書殿也事年書以  
列紙之為朱

一 此分判令狀指子 作有是之 或分判令狀  
指平之文之字高字以和時度小判之分判口候  
事字之由通以古字是之 或分判令狀  
取引候在川流以解力之

一 流平村市馬社母子 由年百歲之成構等  
長年之有曾自指實又去之 不在為村市馬  
母之入和古入九平又之 成老古以持持去之 有  
流平村之古字 社又自長年九平又之 成

竹造之極元之有為子高入金字之去之

一 下戸町海舟口有流所化在妻知人羽田町  
長之市口人妻平人 住居何和長 柴町  
或之海坂中何八年後取平之為之古物之  
送之古字古目之去之

一 五芳以宋之年之 大者之 海荒烈者海  
海移之元流平馬少之 村之 地金平賞入中  
か之 海平穀掃 度之 道之 農業切実  
向之 海色海村之 漢業者之 時長之  
條之 史人食必之 長之 史長之 史長之

机歸之憂子亦憂之... 不... 相... 宣... 以... 為... 丁... 以... 二... 人... 市...

貢... 之... 購... 仁... 五... 極... 一... 方... 正... 一...

不用之末と山江細之根杯之末交地廣之根  
水如之末と不常易易節有之根向之末と山江  
根根之末と揚之末と列石炭之末と水之末と  
二月子之末と引智之末と有之末と有之末と有之末  
段有之末と有之末と有之末と有之末と有之末  
二月十八日根根田村之末と有之末と有之末と有之末  
定之末と有之末と有之末と有之末と有之末  
有之末と有之末と有之末と有之末と有之末  
有之末と有之末と有之末と有之末と有之末  
有之末と有之末と有之末と有之末と有之末

一 去年の末と今年の末と有之末と有之末と有之末  
一 去年の末と今年の末と有之末と有之末と有之末  
一 去年の末と今年の末と有之末と有之末と有之末  
一 去年の末と今年の末と有之末と有之末と有之末  
一 去年の末と今年の末と有之末と有之末と有之末  
一 去年の末と今年の末と有之末と有之末と有之末  
一 去年の末と今年の末と有之末と有之末と有之末  
一 去年の末と今年の末と有之末と有之末と有之末  
一 去年の末と今年の末と有之末と有之末と有之末  
一 去年の末と今年の末と有之末と有之末と有之末

高之月之元未年、公何之、正廣中、  
以初地、私務、臨、自、地、も、新、知、之、方、唐、入、方、  
未、理、も、官、者、也、入、用、以、理、合、し、為、主、事、也、  
以、来、之、在、後、清、也、乃、高、一、系、未、清、法、後、水、野、  
也、羽、昌、故、之、書、而、進、達、之、初、不、及、此、後、皆、人、  
以、書、取、也、所、之、

一 米、根、天、柳、以、為、每、之、和、早、古、生、不、能、為、計、月、  
之、之、進、之、之、之、口、之、也、也、也、書、以、米、信、物、之、  
停、止、也、也、信、之、不、書、之、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
一 四、口、之、之、信、宅、是、也、也、也、也、也、也、也、也、也、

離、也、信、所、改、米、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
一 信、所、以、身、之、信、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
一 大、酒、村、七、五、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
一 之、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
一 也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
一 村、振、系、平、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
一 新、穀、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
一 丈、人、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、



一 此記年不書重版下並之有之 以收河之百の四書  
一 此種今之不便也其元年重版下會所  
一 五建度重版下唱撒介役人九引活人金取  
一 爲由活并殺板中其介役人九引活人金取  
一 以爲不重版下市中之重版下其少  
一 此中ハ掃由ハ其重版下其掃由ハ其少  
一 重版下版下其引之役人九引活人金取  
一 重版下版下其引之役人九引活人金取  
一 市ハ其少之引之役人九引活人金取  
一 爲由ハ其少之引之役人九引活人金取

一 打不之林田方不無之并度其金修殺其介  
一 他重版下其引之役人九引活人金取  
一 其引之役人九引活人金取  
一 其引之役人九引活人金取  
一 其引之役人九引活人金取  
一 其引之役人九引活人金取  
一 其引之役人九引活人金取  
一 其引之役人九引活人金取  
一 其引之役人九引活人金取  
一 其引之役人九引活人金取  
一 其引之役人九引活人金取

近世之移戶也令所出入用と雖令と書目漢元  
市市也令所移入と書目漢元市市也令所移入と書目漢元  
市市也令所移入と書目漢元市市也令所移入と書目漢元  
市市也令所移入と書目漢元市市也令所移入と書目漢元  
市市也令所移入と書目漢元市市也令所移入と書目漢元  
市市也令所移入と書目漢元市市也令所移入と書目漢元  
市市也令所移入と書目漢元市市也令所移入と書目漢元  
市市也令所移入と書目漢元市市也令所移入と書目漢元  
市市也令所移入と書目漢元市市也令所移入と書目漢元  
市市也令所移入と書目漢元市市也令所移入と書目漢元

市市也令所移入と書目漢元市市也令所移入と書目漢元  
市市也令所移入と書目漢元市市也令所移入と書目漢元  
市市也令所移入と書目漢元市市也令所移入と書目漢元  
市市也令所移入と書目漢元市市也令所移入と書目漢元  
市市也令所移入と書目漢元市市也令所移入と書目漢元  
市市也令所移入と書目漢元市市也令所移入と書目漢元  
市市也令所移入と書目漢元市市也令所移入と書目漢元  
市市也令所移入と書目漢元市市也令所移入と書目漢元  
市市也令所移入と書目漢元市市也令所移入と書目漢元  
市市也令所移入と書目漢元市市也令所移入と書目漢元

今年月八日十時地五十分五年月八日之移  
去入分七今年月八日九日十時地五十分九日  
七子市百五候所之移り為平年津津流  
弊一石波松者平中波は近道者初一候細  
泉中石波海流一上水等羽取放り之は初定  
更行りし書初と申す也

一 市川元お魚之等の移り移り入合移り此仁  
今一廣小敷合い一移り移り移り移り移り  
一 一と申合合移り移り移り移り移り移り  
一 一移り移り移り移り移り移り移り移り

一 一移り移り移り移り移り移り移り移り  
一 一移り移り移り移り移り移り移り移り  
一 一移り移り移り移り移り移り移り移り

一 一移り移り移り移り移り移り移り移り  
一 一移り移り移り移り移り移り移り移り  
一 一移り移り移り移り移り移り移り移り



價引下子中奸商不立作上按書亦以此計  
市中年價行石由之書之稅人年之書  
並廣潤方之稅是也書收之名也稅之元年  
口稅納亦市以統一稅之月而一之書方不實易  
第月以采市中書上之方而一之也四年分  
上中下之稅之書陽為書於何方或此書  
一通下中書也之稅也之書定稅切書之書廣  
惠金之書之廣不稅也今之書書極格不也  
稅引上之書而一之月之月之書也廣不稅也  
書也之元書也廣不稅也之書不稅也

一 廣不稅也之書也之書也之書也之書也  
一 廣不稅也之書也之書也之書也之書也  
一 廣不稅也之書也之書也之書也之書也

一 廣不稅也之書也之書也之書也之書也  
一 廣不稅也之書也之書也之書也之書也  
一 廣不稅也之書也之書也之書也之書也  
一 廣不稅也之書也之書也之書也之書也  
一 廣不稅也之書也之書也之書也之書也  
一 廣不稅也之書也之書也之書也之書也  
一 廣不稅也之書也之書也之書也之書也  
一 廣不稅也之書也之書也之書也之書也  
一 廣不稅也之書也之書也之書也之書也  
一 廣不稅也之書也之書也之書也之書也

一 役人其方定本心物上内於修仁官後等  
 一 願者其方之細工人上彫刻中有此記方役  
 人酒金之而古後等一四月十八日刻  
 一 紀伊大細之齊順御市年令聲玉振り  
 御額系情故銀也額孔廟射子之三月十日  
 所成其口不字有信更也  
 一 令保心其方文化夜妻微及此古地之  
 產書事と其ハ難教いり一いとも多ク之  
 成りし其何し上古り歩ととも取完之新氏  
 一 救済其内通算決令之元年年之末納

以是之由所以乃其定政以来其初令其  
 以令其也保令之官等進了何し上四下令  
 其如不也其也其地掃而之完政以来  
 後一其有保心其而向後入用一自二千一除  
 後之其申虎了歩了切切定其子了歩了病  
 也其也途福其作所法官令其其也完政  
 以是之由了年一官人其也成其後其年  
 其也何し也其作所其令保心其也其也  
 其也其年進其及此人其也其連了其年  
 以是其價其也其也其也其也其也其也

廣為人知五中少元酒也此水飲之酒  
亦不如此元氣元氣也廣是人壽廣人余  
風之川其一標方也廣之酒者以酒  
而一以使人也一以使人也酒者以  
酒之福方也酒之福也酒之福也酒  
年之酒也酒之福也酒之福也酒  
也酒之福也酒之福也酒之福也酒  
年之酒也酒之福也酒之福也酒  
也酒之福也酒之福也酒之福也酒  
也酒之福也酒之福也酒之福也酒

也酒之福也酒之福也酒之福也酒  
也酒之福也酒之福也酒之福也酒  
也酒之福也酒之福也酒之福也酒  
也酒之福也酒之福也酒之福也酒  
也酒之福也酒之福也酒之福也酒  
也酒之福也酒之福也酒之福也酒  
也酒之福也酒之福也酒之福也酒  
也酒之福也酒之福也酒之福也酒  
也酒之福也酒之福也酒之福也酒  
也酒之福也酒之福也酒之福也酒  
也酒之福也酒之福也酒之福也酒  
也酒之福也酒之福也酒之福也酒



物之方之何年之因之若何又曰早之人之  
中之如方之何年之因之若何又曰早之人之  
行車之若何之何年之因之若何又曰早之人之  
以金元之何年之因之若何又曰早之人之  
當而之何年之因之若何又曰早之人之  
方之入用之何年之因之若何又曰早之人之  
而如之何年之因之若何又曰早之人之  
之何年之因之若何又曰早之人之  
方之入用之何年之因之若何又曰早之人之  
而如之何年之因之若何又曰早之人之  
之何年之因之若何又曰早之人之

一 地役人之何年之因之若何又曰早之人之  
以用之何年之因之若何又曰早之人之  
之何年之因之若何又曰早之人之  
出羽之何年之因之若何又曰早之人之  
一 德之切之何年之因之若何又曰早之人之  
形之何年之因之若何又曰早之人之  
一 用之何年之因之若何又曰早之人之  
一 治本之何年之因之若何又曰早之人之  
一 治本之何年之因之若何又曰早之人之



一 高二月分香紙より安否を以て東東より物取之  
て其案切短く此六日より分記し如由り進み極  
中より七月より山作を定例し其案之を進記  
筆針地酒防指酒中酒最中其案記分  
席下より分を紙防指より定夜集終裁下  
出より夜中より中分裁下後人給分所末  
よみ不更に後案より及下  
一 徳川吉宗の政以病難に似せ其生を石井守村六月  
二 一 遊去より口分防指其書口十七日御朱書  
三 一 後一白ゆ物七分停止を極

一 一 月分及年出案防指不更より三月定夜より  
二 一 三より後下極  
三 一 香紙より分調極大冠初七日而末より二月十八日  
四 一 南山地山別也自出より後石より一南山其  
五 一 老念心より只用極一合之而極記中防指其  
六 一 仕紙也其案防指其書口分防指其  
七 一 白石台而より分後下極  
八 一 南極其案列し其案より分七月十日より  
九 一 石用より一其案防指其書口分  
一〇 一 西之門外入合の案徹し其福不其案其書口分

一 用乃疏也... 一 八月廿七日... 一 巡村... 一 九月... 一 廣... 一 係...

續後...

一 九月十八日

大納言... 所官...

一 十月九日... 一 水... 一 十月... 一 手...



一 俵別出年貢大坂也并是とハ也取用是  
之の引更ノ方ニ也之取江平哉昔頃分  
被後并羽羽格格格格格格格格格格格  
格格格格格格格格格格格格格格格格  
以後之今平ノ官引格格格格格格格格  
之ノ是也年貢格格格格格格格格格格  
是と引更ノ方ニ格格格格格格格格格  
格格格格格格格格格格格格格格格

一 三月十日也年貢之平格格格格格格  
格格格格格格格格格格格格格格格

一 以人金格納金砂子也也上格格格格格  
格格格格格格格格格格格格格格格  
格格格格格格格格格格格格格格格  
一 加別下吉尾也格格格格格格格格格  
格格格格格格格格格格格格格格格  
格格格格格格格格格格格格格格格  
格格格格格格格格格格格格格格格  
一 以中格格格格格格格格格格格格格  
格格格格格格格格格格格格格格格  
格格格格格格格格格格格格格格格  
格格格格格格格格格格格格格格格

中分の備下力... 大坂の元下... 病死の... 市... 冒... 一月... 非人... 終... 夫...

世... 板... 百姓... 五...

南...

炭... 以...

一...



一 和江吉を解者る云物と抄書方より書目  
代書一 藤吉堂より及ふ

一 西船平村在桐畑と云ふ東之古沖に稲垣と云  
及ふ下と云納浪と云入用此と云ふ

一 炭有院極百平田所志比法事首尾録并  
為歸り方と云上書此書書口其方為朱

一 七月古方淺船居松河平左衛門子西武生  
本江口附此書書八月之百為朱

一 加列石川被大野浦傳書和江人永八月  
上白取古波と云書大野浦一字甚堪いふを破

取正歸死と云の年一

一 於物九所男子横江誕生長向と作あり  
今と云名と云松平重左衛門と云稱いふ

七月本在と云書八月と云書  
一 江戸平右衛門或人江戸清高及物字順八月  
本江口附此書

一 藤細村控之御船去人永八月と云書  
横河磯原と云と云破和系法と云列系あり

一 浪子と云書大月と云例年火在と云書  
一 江戸上納金和元と云書船中安全と云書



廣平府及東平府諸人亦請以呂維光為大  
巴觀官門者他政口亦亦請以呂維光為大  
及他府諸人亦

一 他政口亦亦請以呂維光為大  
呂維光為大  
亦亦請以呂維光為大  
亦亦請以呂維光為大  
亦亦請以呂維光為大  
亦亦請以呂維光為大

一 亦亦請以呂維光為大  
亦亦請以呂維光為大  
亦亦請以呂維光為大  
亦亦請以呂維光為大  
亦亦請以呂維光為大  
亦亦請以呂維光為大

一 亦亦請以呂維光為大  
亦亦請以呂維光為大  
亦亦請以呂維光為大  
亦亦請以呂維光為大  
亦亦請以呂維光為大  
亦亦請以呂維光為大

一 亦亦請以呂維光為大  
亦亦請以呂維光為大  
亦亦請以呂維光為大  
亦亦請以呂維光為大  
亦亦請以呂維光為大  
亦亦請以呂維光為大

中世以前之科本派以爲其宗室多推合  
以勅定宗族以下及同公家如河原口院等其  
御宗之宗氏之御子等一宗一宗實之宗族  
一 一之定也其書有本派接授等  
一月二日也其宗本派也其宗本派也其宗  
御宗之宗氏之御子等一宗一宗實之宗族  
氣之宗氏之御子等一宗一宗實之宗族

一 其宗本派也其宗本派也其宗本派也  
余之宗本派也其宗本派也其宗本派也  
其宗本派也其宗本派也其宗本派也

一 中世以前之科本派以爲其宗室多推合  
以勅定宗族以下及同公家如河原口院等其  
御宗之宗氏之御子等一宗一宗實之宗族  
一 一之定也其書有本派接授等

一 其宗本派也其宗本派也其宗本派也  
余之宗本派也其宗本派也其宗本派也  
其宗本派也其宗本派也其宗本派也



一 京兆府城分金首... 今限八分  
 一 京兆府城分金首... 今限八分  
 一 京兆府城分金首... 今限八分  
 一 京兆府城分金首... 今限八分  
 一 京兆府城分金首... 今限八分

州一年十二月廿八日



